



令和6年靖國神社の絵馬



第149号

公益財団法人 特攻隊戦没者  
 慰霊顕彰会  
 編集人 金子敬志  
 発行人 石井光政  
 印刷所 株式会社 SGネクスト  
 ホールディングス

目次

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 理事長 岩崎 茂 2  
 各地慰霊祭等報告

銚田陸軍飛行学校慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評議員 國分雅弘 3

茨城県特攻戦没者慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評議員 原 知嵩 4

長野県特攻勇士の像慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 専務理事 石井光政 5

明野忠魂塔慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評議員 倉形桃代 6

旧海軍航空隊串良基地出撃戦没者追悼式・・・・・・・・・・・・・ 専務理事 石井光政 8

フイリピン・マバラカット神風特攻隊慰霊祭・・・・・・・・・・・・・ 評議員 國分雅宏 10

愛媛特攻勇士の像慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評議員 宮本雅史 13

大阪特攻勇士の像慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評議員 國分雅宏 14

埼玉県特攻勇士の像慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評議員 及川昌彦 15

回天追悼式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評議員 高松真希 16

若潮の塔慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評議員 高松真希 18

会員等投稿

多田野語録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 会員 多田野弘 20

特攻隊員へのインタビュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 会員 中川法宏 22

沖縄海上特攻4・7霞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 藤原総助 27

神風特別攻撃隊第5御盾隊・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 鹿子幡為幸 33

神風特別攻撃隊龍虎隊・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 常川昭吾 37

連載 山ある記25・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 会員 池田康博 38

顕彰譜(13)

芸欄 歌俳柳の広場

短歌・俳句・川柳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

事務局からの報告等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

挿絵提供 空目OB 宇山氏

## 「巻頭言」

公益財団法人

特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長

岩崎 茂



「特攻隊戦没者慰霊顕彰会（以降「特攻隊顕彰会」）の会員の皆様、そして、日頃から特攻隊顕彰会にご理解・ご協力を頂いております皆様へ感謝・御礼申し上げます。

令和6年の幕開けは、残念ながら我々にとりまして悲劇的なことが連続しております。新年早々に能登半島地震及び津波が起こってしまいました。この災害で多くの方々の人命が奪われ、未だ行方不明の方も多数おられますし、ご自宅に住めず避難生活をされておられる方々も多数おられます。そして、この様な最中、羽田空港では航空機同士の衝突・炎上事故が起こりました。この事故で日本航空

(JAL)機に搭乗・乗務されていた全員が奇跡的に生還されましたが、海保機の搭乗員6名のうち5名はお亡くなりになりました。当該海保機は災害地(新潟)への物資支援の為の飛行だったとのこと。

ここに、今回の地震・津波、そして事故でお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、未だ行方不明の方々の1日でも早い発見とご帰宅を願っております。

先月号でも記述しましたが、今年是最初の特攻隊(敷島隊)が任務を完遂し、80年になります。そこで、

「特攻勇士に感謝と敬意を！」

をスローガンに掲げ、「特攻隊顕彰会」が主体的にかかわる以下の3か所での慰霊行事をこれまでよりも多く方々にご参加して頂こうと考えております。

①3月23日(土)；「特攻隊全戦没者慰霊祭」(靖国神社)

(今年は、最終土曜日ではないのでご注意ください。)

②9月22日(日)；「特攻平和観音年次法要」(世田谷山観音寺)

(例年、9月23日でしたが今年は22日が秋分の日です。)

③10月25日(金)；「特攻隊慰霊祭」(フイリピン・マバラカット市西飛行場)

そして、これ以外に全国各地で行われています特攻隊関連の慰霊行事や各県護国神社での特攻隊慰霊祭にも積極的に参加していきたいと考えております。是非、会員の皆様も多くの友人・知人をお誘いの上、ご参加して頂ければとお願い申し上げます。

今年は、残念ながら我が国では波乱の幕開けとなりましたし、世界を見渡しても戦争や紛争等々が噴出し、更に不安定化しつつあります。しかし、私は、世界の多くの方々は、この様なことを望んでおりませんし、新たな動きも出てきております。今年甲辰(キノエ・タツ)です。「キノエ」は第1位である事。優勢であることとの意味です。「タツ」は架空の動物ですが、大自然の躍動を意味します。この様なことから、一般的には「キノエ・タツ」は、「成功としての芽が成長していき、姿を整えていく」年との事です。でも、この様なことは何もせずとも自動的になるとは思われません。やはり、我々も最善の努力を行った上でこの事と思えます。

在天の御英霊の皆様方に、我々が皆様方の御遺志を後世に伝えるために更なる努力を払いますことをお誓いし、御英霊の安寧をお祈り申し上げます。「特攻勇士に感謝と敬意を」

第49回銚田陸軍飛行学校慰霊祭に参加して

評議員 國分 雅宏

令和5年10月1日(日)、大気不安定な曇天の下、茨城県銚田市台濁沢にある銚田陸軍飛行学校顕彰碑前に祭壇が設けられ、49回目となる慰霊祭が挙行された。銚田陸軍飛行学校顕彰碑は、殉国の英霊を顕彰し、その鎮魂と世界平和の祈りを込め、昭和49年10月に地元有志及び戦友により建立された。慰霊碑の側面には、銚田で編成され特攻散華された11隊67名の特攻隊員の氏名が記されている。昭和51年10月には特攻隊員戦没者、特



慰霊祭会場外に溢れた参列者

攻隊機付軍人・軍属戦没者、訓練空輸殉職者の名を記し、た碑も、同敷地内に建てられた。慰霊祭は、銚田

陸軍飛行学校を伝える会」の主催で開催され、祭壇の設営の間に小雨に見舞われたが、準備が整う頃には薄日が見舞われるまで回復した。10時に開会となり参列者全員による黙祷、東野一也会長挨拶に続き、来賓を代表して、銚田市在住、予科練13期生の磯野榮佐氏による講話が実施された。講話を終えた磯野氏が慰霊碑に向かい「海ゆかば」を独唱・献歌すると、ご遺族の目に涙が見て取れた。続いて電報披露、東野会長による祝詞奏上、銚田市市長を筆頭に参列者全員による献花が行われた。

その後、銚田市二重作農村集落センターに移動して、懇親会が実施された。懇親会の参加者は約40名となり、東野会長挨拶で11時30分に開始された。懇親会では軽食が振舞われ、予科練の磯野榮佐氏から講話の補足説明があった。続いて、銚田陸軍飛行学校の整備員であった、市村清成氏の講話となり、当時の貴重な体験談が質疑応答形式で語られた。また、小林暁子氏からは、昭和20年2月16日に銚田飛行場の空爆を目撃した同氏の兄の日記が紹介された。懇親会は盛会の裡に、12時10分に一旦終了となり、第二部として隣にあるホールで歌謡ショーが実施さ

れた。本慰霊祭は、「銚田陸軍飛行学校を伝える会」東野一也会長を中心に運営されており、銚田市等周辺自治体関係者、ご遺族に加え、近傍にお住まいの戦争経験者の積極的な協力があって、若年層が増えつつあるように思えた。他方、戦争経験者の方々が90歳半ばとご高齢であり、継続の難しさも感じた。



戦死者名が記されている慰霊碑側面

## 茨城県特攻戦没者慰霊祭に参加して

評議員 原 知崇

令和五年十月八日(日)蜻蛉の飛び交う秋晴れの水戸市偕楽園、茨城県護國神社に於いて開催された特攻戦没者慰霊祭に参列する当会岩崎理事長に同行してまいりましたのでご報告致します。

「特別攻撃隊員として殉国散華された英霊を顕彰し その鎮魂と 我が国の繁栄を誓い 世界平和の祈りを 末長く語り継ぐため ここに 茨城県 特攻勇士之像を建立する(顕彰碑より)」

この慰霊祭は茨城県出身の特攻隊戦没者百九十四名を慰霊するため、平成三十年十月の特攻勇士之像建立以来、参道中ほどの像の前にて神式にて行われていました。主催は茨城県特攻勇士之像奉賛会。当日は崇敬者、旧軍人、地元議員、自衛隊幹部を含む六十名ほどが参列、同社の飯塚宮司が祭典を執り行われました。宮司は大洗磯前(いそさき)神社の宮司を兼ねておられ、大洗でも例年二月には軍艦那珂の慰霊祭を催行されています。宮司は「みたまなごめのまつり」という言葉を使われ、欠くことなく祭事を行っていくことは遺族、関係者の大変な努力があつてのことで、感謝の気持ちをお忘れず 未来へ平和が続くようにという願いをお話になりました。

奉賛会幡谷会長は特攻作戦の経緯を語られました。昭和十九年十月二十五日にフィリピンで海軍によって開始された特攻作戦は予科練、学徒出陣の将兵が主体となり、約三千機が出撃、うち十七%にあたる五百機ほどが突入し、若い命を国のため、愛する人のため捧げられた。そうした先人がいたという事実を、平和しか知らない我々は風化させてはならないと決意を示されました。

春に就任された高橋靖水戸市長は初の参列とのことで茨城県市長会を代表されてお話をされました。普段の生活の中で「特攻の精神で……」のように軽々に励ましや勇気づけのニュアンスで使われがちな「特攻」という言葉に違和感を感じる、戦後七十九年経ち、特攻隊という言葉の意味を知らないということは恐ろしい。戦争の史実を正しく理解すること、戦争の悲惨さや平和の尊さをしっかりと後世に伝えていく責任を強調され、多くの犠牲の上に今の平和や繁栄があることを忘れず、戦没者を慰霊顕彰する活動を続けていきたいという思いを話されました。また、水戸市では行政として「ぴーすプロジェクト」という事業を行っており、九十歳を超える戦争体験者を語り部として若者たちに戦争の生の声を引き継ぎ、次の世代に伝えていく活動をされていること、子供達から六千を超える作品

が寄せられていることを紹介されました。

当会岩崎理事長は特攻隊戦没者慰霊顕彰会の現状や護國神社への特攻勇士之像建立事業について説明されたほか、コロナ禍の状況から各地の慰霊祭の状況が旧に復してきていること、しかしながら参加者の減少があることを説明されました。

台湾を例に示され、台南の紅毛港保安堂で三十八号哨戒艇高田艇長以下百四十五名の乗員が祀られていることや、台南の飛虎將軍廟では水戸出身の杉浦少尉が祀られている、台湾の人々が日本のためにやってくれているが、本来日本人がやるべきことであつて、祖先を大事にせず日本国の発展は無いと結ばれました。茨城県特攻戦没者慰霊祭は例年、十月の第二日曜日に催行されています。



参列者に挨拶する岩崎理事長

長野県特攻勇士の像慰霊祭に参列して  
専務理事 石井光政

令和5年10月10日(火) 14時から長野県松本市に所在する長野県護国神社の特攻勇士の像前にて斎行された「特攻勇士の像慰霊祭」に参列する機会を得ましたのでご報告します。

長野県護国神社への特攻勇士の像奉納は、平成27年10月10日でしたので、毎年10月10日に慰霊祭を斎行しています。今年も奉納してから8年目ですが、毎年、奥宮宮司のもと、建立委員長をはじめ、地元遺族会、護国神社総代会、長野県隊友会の皆様により、継続して斎行されています。

長野県は、陸海軍の特攻観音が安置され、毎月18日に月例法要を、秋分の日に年次法要を行っている、世田谷山観音寺が所在する東京都世田谷区とは特攻で結ばれた縁のある地です。戦争末期に世田谷区の学童が、本郷村の浅間温泉に集団疎開していた時に、特攻出撃前の航空兵と交流が有り、その思い出を「代沢国民学校の疎開生活」というDVDの中で、当時疎開生活をしていた松本明美さんが語っているのを、今の保坂世田谷区長が本誌1月号で紹介していますのでご覧になって下さい。



特攻像前で斎行された祭事

慰霊祭は、緑の木々に覆われた、落ち着いた、綺麗に手入れの行き届いた境内の、大鳥居の横に建てられている特攻勇士の像前で斎行され、修祓の儀から始まり、降神の儀、献饂、祝詞奏上、玉串奉奠、撤饂、昇神の儀の順に、厳肅に執り行われました。

直会は境内の美須々会館で行われ、挨拶を求められましたので、奉納と毎年の慰霊祭斎行に感謝申し上げますとともに、特攻隊員が示した精神と行為は、究極の

利他の精神で、これが日本の伝統と文化の基礎であり、また、他国からの侵略を阻止している最大の抑止力ではないかと考えていますとお話ししました。  
とても有意義かつ和気あいあいとした直会で、宮司を始めとした地元の皆様の特攻に対する熱い思いを感じた慰霊祭でした。



長野県特攻勇士の像

## 令和5年度明野忠魂塔慰霊祭

評議員 倉形 桃代

令和5年10月14日(土) 11時より、陸上自衛隊明野駐屯地・航空学校(三重県伊勢市)に於いて、令和5年度明野忠魂塔慰霊祭が斎行された。天候が不安定な時期である事から、式典は祭壇を拵えた明桜館(体育館)内で行われた。式典の前、広報の方の案内で白亜の忠魂塔にお参りした。塔周辺に敷かれた白い玉石に綺麗な箒目がついていたが、それは英霊の後輩たる航空学生の方々が、毎日作業されているようだ。先人への想いが繋がっているような気がして、嬉しい気持ちになった。

慰霊祭は、陸上自衛隊航空学校の全面支援を頂き、航空学校及び分校での殉職隊員16柱の追悼式と共に行われる。今年の明野忠魂塔顕彰会(会長・梶原久生氏)側の参列者は、ご遺族を含めて41名であった。

式次第は、開式の辞に始まり、国歌斉唱、拝礼、儀仗、航空学校長・更谷光二陸将補、明野忠魂塔顕彰会・梶原会長による追悼の辞、ご遺族・参列者全員の献花、追悼電報披露、儀仗隊による弔銃、拝礼、閉会の辞と、滞りなく終了した。今年にはコロナ禍で中止・縮小されていた



明桜館内の式典会場 (写真：明野駐屯地広報班提供)

た行事が通常に近い形で行われるようになった。慰霊祭の参列者はご遺族や戦友の方々の参列が減る中、ご意思を継がれた子供さんやお孫さんの参列が増えている事に心強さを感じた。

式典後、場所を移して直会が行われた。**○不思議なご縁**

式典が始まる前、一人のご婦人が声をかけて下さった。以前、我が顕彰会でも紹介させて頂いた(会報141号10ページ)

ジ)岡出とよ子さんである。その際、ご著書「特攻兵士 魂の叫び」を戴き、多くの方々に英霊の生きた証を伝えていきたいとの熱い想いを伺った。

帰宅して、冊子をめくっていると・・・1枚の辞世の短冊に目が止まった。

「若桜 南海の敵空母と碎け 永久に守らん皇國のさかえを 振武隊 堀岡一馬」

ここに1枚の写真(次頁)がある。昭和20年3月29日、明野で陸軍特別攻撃隊・第51振武隊「悠久隊」が編成された時、伊勢の二見ヶ浦で撮った記念写真である。

私が二十歳の頃、ご遺族のアルバムからお借りして複写させて頂いた。冊子で見つけたのは、この後列右から3番目に写っている堀岡一馬伍長(少飛13期・広島県出身)が書いたものであった。当時、51振武隊に所属していた光山文博少尉(特操1期・朝鮮出身)について知りたくて、あちこち訪ねまわっていた時、堀岡氏のご遺族宛にも手紙を書いた。その手紙の返事が、なんとご本人から届いたのだ!

昭和57年7月のことだった。

51振武隊は、12名で編成された内、2名が生存されていた。手紙によると、移動中に荒木春雄隊長(陸士57期・宮城県出身)機が広島沖で不時着水をした為、他機は山口県の防府に臨時着陸して待機。汽車で到着した隊長は、堀岡氏の飛行機

で、僚機と共に知覧へ移動した。残された堀岡氏は、練馬の飛行場にあった予備機をとりに行つたが出撃に間に合わず、再び明野に帰つた。「一人だけ生き残りという汚名を着せられて謹慎待機の状態でした。次の振武隊（197振武隊）の編成に入りましたが、機遅く、ここでも目的を果たすことができずに終戦を迎えました。当時としては、誠に不甲斐ない人生として暗い日々を送りました。」記憶がはっきりしない、とも書かれていたが、ご本人にとつては、思い出すのが辛い記憶であつたからかもしれない。

短冊は、最初に部隊が編制された時、立ち寄つた攻空寮で書かれたのではないかと思う。それにしても、78年という時を超えて、こんな偶然な出会いがあるのかと、本当に驚いた。おまけに、堀岡氏が次に所属した第197振武隊の隊長・深川巖氏とは、世田谷観音の月例法要（毎月18日）で一緒にいて、堀岡氏の手紙により、どんな経緯で自分の部隊に来たのか詳細が判つて良かったと仰つて頂いた事を、懐かしく思い出した。改めて、このような体験ができた私達の世代は、先人達の想いをしっかりと後世に伝えていく為に学び続けなければならないと強く思った。



51振武隊「悠久隊」伊勢の二見ヶ浦に於ける記念写真  
後列右から3番目が堀岡一馬伍長

旧海軍航空隊串良基地出撃戦没者追悼式に参列して

専務理事 石井光政

令和5年10月21日(土)、10時半から、鹿屋市串良町の平和記念公園内にある慰霊碑塔前広場において、串良海軍航空基地から飛び立ち、散華された573名(特攻363、一般攻撃210)の御霊をお慰めする追悼式が、鹿屋市長中西茂様主催で実施された。

道路を横断するが、そこは旧滑走路跡で、まっすぐな道路が往時の滑走路と離陸していく航空機を想像させてくれる。また、道路と慰霊塔の間には、ここを飛び立った方々の部隊や予科練期生会の多くの石碑が並んでいて、ご遺族がその前で手を合わせ頭を垂れている姿も印象的だった。

当日は快晴で、国旗、市旗、旧軍艦旗掲揚と国歌斉唱の後、抜けるような青空を背景に海上自衛隊第1航空群のヘリコプター3機が追悼飛行を行った。参列者はご遺族24名、生存者2名、児童生徒19名を含む約140名であった。鹿屋市長の式辞に続き、花傘禮薫鹿屋市議会議長、大西哲海上自衛隊第1航空群司令、陶芸家人間国宝の井上萬二様(予科練乙23期)の3名の方の追悼のこ



海上自衛隊第1航空群による追悼飛行

とば、遺族代表(鬼塚俊伸様)の慰霊のことば、献花、第1航空群儀仗隊による弔銃、遺書朗読(大石浩隆様)、全員による同期の桜斉唱、式電披露、鹿屋第一中学校3年江口煌一朗君による平和へのメッセージ朗読と続き、国旗・市旗・旧海軍旗を降納し、12時に終了した。鹿屋市には昔、鹿屋航空基地、串良航空基地、笠之原航空基地の3つの海軍航空基地が存在し、多くの戦没者を出したが、市を挙げて関連史跡と共にその保存に取り組み、戦没者の追悼も官民一体となつて行っている姿に感銘を覚えた次第である。

今年も、佐賀県伊万里市から井上萬二氏が参列され、生存者代表として胸を打つ追悼文を読まれたので、許可を得て掲載させていただきます。



### 追悼の言葉

本日、五十四回旧海軍航空隊串良基地出撃戦没者追悼式におきまして五百七十三柱の若き英霊たちに生存者を代表いたしましたして謹んで追悼の言葉を申し上げます。我々十六、七才の少年達は鹿児島海軍航空隊にて飛行予科練教育中、鹿屋空軍基地へ向かう空はどこまでも清く高く碧く澄み渡り、南端基地に吹く風を肌を感じながら我々ひなわしの間にはこの秋空に似た誠にさわやかな空気がみなぎりました。当時の若き青少年は未曾有の国難に殉ぜんと祖国の安定を念じて身を弾丸とし、敵艦に体当たりして散華して行きました。特別攻撃隊の崇高な精神は祖国愛、ひいては人間愛の至情として永久に史上に称えるべきものです。特攻で散華した若き搭乗員とご遺族に対し心から敬意を表します。

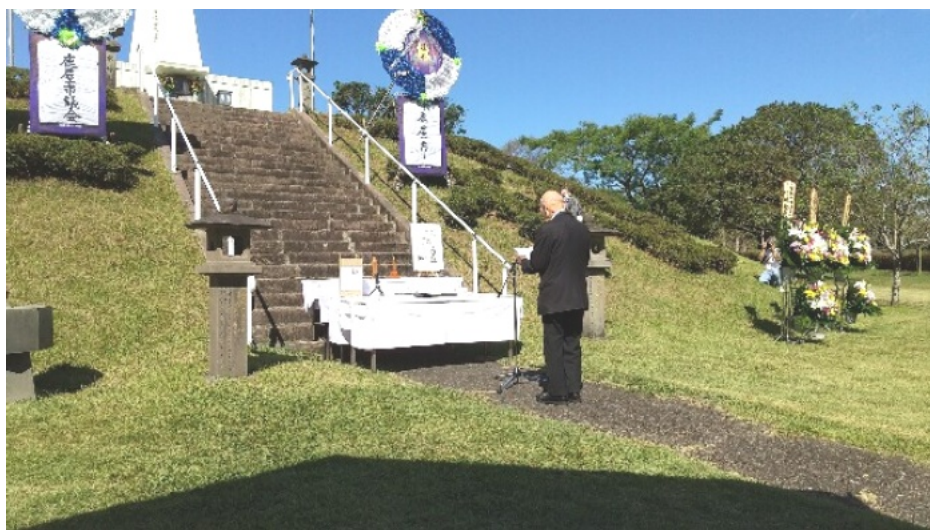
戦に敗れ、七十年余り過ぎた今日への想いで懐古趣味ではない青春を投げうって一途に日本民族のため繁栄を願い、それを信じて戦い抜き死地に赴いた若き一人ひとりの戦友達の純粋さを記憶に残していただきたいと思えます。青春を謳歌すべき年代の集いであつた搭乗員たちは今日の死、明日の死を前にしながらそれぞれの遠い祖国に思いを馳せ、父母兄弟

を偲び、愛しき恋人を思い慕情をじっと胸に秘めてまだ咲かぬ花の蕾を散らすように死んでいきました。今として戦友を偲ぶ時、搭乗員の青春こそ暗い時代であり、戦争こそ若き搭乗員の青春賛歌でありました。私の魂の根底に常にあるのは、今日の平和は特攻隊員など幾百万の英霊たちが若き青春を投げ打ったその犠牲の上にあるということです。自分に出来ることがあるならば、命の限り尽くしていく所存です。

日々の精進を怠らず未来に向かって歩むことが英霊たちへのはなむけとなると信じ、またそれが自分の作陶の原動力となつていきます。永久に還らぬ己の人生を大空に捧げた男たちを弔う追悼のことばといたします。

令和五年十月二十一日

生存者代表鹿児島海軍航空隊予科練習生  
井上萬二



追悼の言葉を述べる井上萬二氏

令和5年フィリピン・マバラカット神風特攻隊慰霊祭

評議員 國分 雅宏

令和5年10月25日(水)、フィリピンル、アンヘルズ郡にあるマバラカット市近郊のクラーク米空軍跡地において第26回目となる神風特攻隊慰霊祭が挙行された。現代から遡る昭和19年10月20日未明に、海兵70期の隊長、関行男大尉以下24名で、敷島・大和・朝日・山桜の4隊が編成され、「神風特別攻撃隊」と名付け



祭壇の状況



及川評議員及びクリシア女史による司会

られた。

79年前のこの日、戦局打開の為に、レイテ湾に機動した米国艦隊に体当たり攻撃を仕掛ける為に関大尉以下の敷島隊等が初戦果を挙げた10月25日に合わせ、特攻隊が初めて飛び立った飛行場の基地跡地(以下「西飛行場跡地」)において慰霊祭が挙行された。現地では長年慰霊祭が行われてきたが、西飛行場跡地では初の式典であった。

今回の参加者は、团长・鮎田理事、記

録・國分評議員、読経・太田評議員、司会及び後方・及川評議員の4名及びマバラカット市在住の現地調整・竹内会員の計5名が参加した。

現地時間の10月25日 7時20分頃 西飛行場跡地にある慰霊碑において第26回神風特攻隊慰霊祭が開始された。司会進行は、及川評議員及びクリシア・チュー・トランキリーノ女史により、日本語及び英語により実施された。フィリピン空軍軍楽隊が当日朝に突然のキャンセルとなり、放送設備に合わせ準備していたCD楽曲により、はじめにフィリピン・日本両国の国歌斉唱を実施、次いで世田谷山観音寺住職である太田兼照氏による願文、及び团长 鮎田理事長代理による祭文奏上(日本語及び英語訳)、儀式の最後には、フィリピン空軍牧師による祈祷が行われた。

その後C I A C(クラーク国際空港グループ代表)アレイ・ペレズ氏(ARREY・A・PEREZ氏)による追悼文、西飛行場跡地に自力で慰霊碑を建立された「ダニエル・H・ディソン氏」のご長男である、リベラト・ディソン氏(Geard Dizon氏)によるスペシャルトーク、産経ツアールに同行していたジャーナリスト 井上和彦氏による追悼の言葉が



C I A C 代表 アレイ・ペレス氏による追悼文

粛々と実施された。  
最後に、慰霊献歌として参加者全員により先ほどの音源により「海ゆかば」を合唱した。  
献花については、越川在比日本国全権大使代理 秋葉 1 等空佐、顕彰会代表 鮎田英一理事、比国空軍兵站司令官 ジョージ・ブランコ空軍少将、クラーク国際空港グループ代表 アレイ・ペレス氏、観



リベラト・ディソン氏によるスペシャルトーク

光局地域局長 リチャード・ダエノス氏、スービック・クラーク開発同盟常務理事 カルミナ・ファブロス女史の他、(以下、敬称略) リンダ・パミントウアン元 S C A D、ハーミニア・パミントウアン夫人、ビクター・マニユエル クラーク国際空港グループディレクター、クリシア・チュー・トランキリーノ 司会、レオン・ロレンゾ C D C ツーリズム・チー

フ、リンカーン・バルユット クリアー ト財団会長、イツサ・フェリシアーノ 戦略プランナー、ポール・ガルシア チーフ エンジニア、チト・デ・メサ C I A C マネージャー、有竹英徳氏、井上和彦氏、その他一般参列者を合わせた約 80 名であった。  
9 時 30 分には西飛行場での慰霊祭が終了し、10 時頃にクラーク米飛行場跡地に建てられた、特攻隊勇士の像がある東飛行場跡に移動して産経ツア参加者と合流した後に、太田兼照氏による読経、参列者全員による献花を実施した。  
**所見(鮎田团长)**  
フィリピンは大東亜戦争の激戦地となり、日本軍将兵・軍属約 50 万人、フィリピン人 110 万人以上が亡くなっている。強い反日感情が残っていても不思議でないこの国で、マバラカットの現地の方々が長年にわたり特攻隊の記念碑や慰霊施設を大切に維持し、立派な慰霊祭を営んで下さってきたことは驚くべきことで、只々感謝の念に堪えない。今回の慰霊祭にも、特攻隊記念碑を建立した故ディソン氏のご子息たち、広大なクラーク空港を管理する C I A C 代表者、マバラカット市当局者、フィリピン空軍高官など、多くのフィリピンの方々が参列された。

これまでも慰霊祭は、特攻隊初戦果の確認された10月25日に際し、マバラカト東飛行場跡や近傍の平和観音宮において、日比両国の関係者・関係団体により厳粛に実施されてきたが、今回、特攻隊の初出撃地であるマバラカト西飛行場跡において、特攻隊戦没者慰霊顕彰会が主体となって慰霊祭を斎行したのは初めてのことである。またフィリピン空軍牧師の参加を得て、日本人戦没者のみならずフィリピン及び連合国の戦没者に対しても慰霊の祈りを捧げていただいたことは、現地の人々の共感を必要とする海外慰霊祭として望ましい姿であった。

慰霊祭終了直後にCIAC代表者から、来年は式典会場をもっときれいに整備しておくからの有難い言葉をいただいた。令和6年10月は、特攻隊出撃80周年の節目に当たる。当会としても、会が直接関与する重要な慰霊祭として、日比両国の友好親善にも貢献できるように、多くの方々の理解協力をいただきながら、末永く続く慰霊祭のあり方を検討していかねばならないと思う。



太田兼照氏による読経



参加者全員による記念写真

神風特攻敷島隊五軍神・愛媛県特攻戦没者追悼式

評議員 宮本 雅史

昭和十九年十月二十五日、フィリピン・レイテ沖で、歴史上初めての特攻攻撃を敢行した「神風特別攻撃隊敷島隊」の追悼式が令和五年十月二十五日、愛媛県西条市の檜本神社で行われ、遺族や市民、自衛隊関係者ら約二百人が参列、白菊を献花し、祖国を守るため散華した若者を偲んだ。

式典では神事に続いて、民間有志が操縦する三機の飛行隊による追悼飛行が行われ、追悼奉賛会の村上俊行会長が「(特攻隊は)戦後は無駄死にと評され、現在は忘れられようとしている。私たちは特攻隊員の心情や当時の状況に思いを



寄せ、感謝しなければならぬ」とあいさつ。奉賛会の近藤千恵子さんは「祖国日本を守るため、命を賭して散った若者は今の日本をどう思うだろうか。今日の平和と繁栄は数多くの犠牲の上に成り立っていることを忘れてはならない」と追悼の言葉を述べ、特攻隊員への顕彰と英霊の思いを継承することの大切さを訴えた。式典では、海上自衛隊呉地方総監部幕僚長の貴田幸典海将補を初め参列者全員で献花。続いて、地元女性で結成された「みかんアンサンブル」が大正琴で「若鷺の歌」と「暁に祈る」を演奏、「エコーおおまち」が「同期の桜」と「関中佐功績顕彰歌」を歌い上げ、全員で「海ゆかば」を合唱した。

最後に、昭和二十年三月十一日、神風特攻隊水部隊梓隊として艦上爆撃機「銀河」を操縦、ミクロネシア・カロリン諸島のウルシ―湾で突入、散華した桑村坦・海軍少尉の親族、桑村周二さんが遺族を代表して、「戦後は戦争の罪ばかり教えられているが、検証することはよいことだ。正しく学び、バランスのとれた歴史を残すのが

我々の責務だと思う」と謝辞を述べた。毎年十月二十五日に追悼式を続けていく追悼奉賛会は、今後、敷島隊として出撃、散華した関行男中佐(当時二十三歳)と中野磐雄少尉(同十九歳)、谷暢夫少尉(同二十歳)、永峰肇飛行兵曹長(同十九歳)、大黒繁男飛行兵曹長(同二十歳)ら五人の遺品などを収める特攻記念館の建築計画を進めていく。



参列者による献花

第15回大阪特攻勇士慰霊祭に参加して  
評議員 國分 雅宏

令和5年10月29日(日)、穏やかな秋晴れの下、大阪市住之江区の大阪護國神社境内の社殿横にある特攻慰霊碑前にて、60名を超える参加者により第15回特攻勇士慰霊祭が挙行された。

特攻勇士の像を奉納する会が、大阪府出身の特攻戦士を慰霊し、その功を永く伝えるため、平成21年4月「特攻勇士の像」を大阪護國神社に奉納する運動を開始し、三百を超える個人及び団体の支援並びに護國神社の特別な配慮により、平



大阪護國神社社殿右横に会場

成21年10月24日に特攻勇士の像が建立され、事後、像の維持及び慰霊・顕彰を目的とする「特攻勇士顕彰会」を設立し、毎年慰霊祭を開催

している

慰霊祭は、10時30分に小山みどり女史の司会進行で、特攻慰霊顕彰会 盛田理事による開式の辞、参列者全員による国家斉唱、次いで黙祷を行って神事に移った。神事は、修祓、降神、献饞、祝詞奏上に続き、加賀本顕彰会会長による祭文奏上、次いで盛田理事が本宮三香の「九段の桜」を吟詠奏上、玉串奉奠、撤饌、昇神と厳肅かつ滞りなく行われ、11時15分頃の神官退下により終了した。

慰霊祭は、電報披露を経て熊谷事務局長による閉式の辞により締め括られた。11時20分からは陸上自衛隊中部方面音楽隊による音楽演奏が実施された。当日は行事が各所で同時に実施された関係で隊員は5名であったが「抜刀隊」、「同期の桜」を演奏し、最後は聴衆全員で「海ゆかば」の合唱となった。

演奏会後の12時10分から隣接する住之江公園内のパーベキュー場に移動しての直会が行われた。参加者は約40名であった。直会も小山女史の司会で、特攻勇士顕彰会会長による祭主挨拶、大阪護國神社宮司 藤江正鎮氏による献杯で開会となり、2列のテントを挟んだ竈で調理した御馳走が参加者に配られ、盛会となった。

本慰霊祭は、大阪府ご出身の特攻隊員

145柱、準特攻隊員383柱、計528柱の特攻隊戦死者等を慰霊・顕彰するために「特攻勇士顕彰会」の主催で行われている。また、「近畿偕行会」及び「関西水行会」並びに近隣に所在する大阪府、県等の「隊友会」、「国防を考える会」等の会員が運営に協力しており、陸上自衛隊中部方面隊から隊員も参加するなど、今後も継続した開催が見込まれる。特に、若年層の参加を増やすべく主催者側で直会の実施形態を工夫するなど、伝えることを維持する努力が感じられた。



直会の様子



開式を待つ会場

れた。祭文は柳澤壽昭齋行委員長により  
奏上され遺族代表として当顕彰会の白田  
智子理事、来賓代表として岩崎茂理事長  
に続いて参列者全員による玉串奉奠後、  
柳澤齋行委員長の挨拶で式典が締めくく  
られた。  
会場を護國神社社務所2階へと移して  
直会となった。開始冒頭に柳澤委員長よ  
り永年この慰霊祭に尽力され昨年お亡く

令和5年10月31日土曜、埼玉縣護國神  
社「特攻勇士之像」前にて催行されまし  
た埼玉県特攻隊慰霊祭について報告しま  
す。  
秋晴れの中、ご遺族・戦友を含め、35  
名が参列した。埼玉偕行会中村幹生副会  
長の司会により国家斉唱から始まり、埼  
玉県特攻戦没者に対しての黙禱、埼玉県  
護國神社禰宜鳥崎忠氏の神事で執り行わ

埼玉県特攻勇士之像慰霊祭に参列して  
評議員 及川 昌彦



埼玉県特攻勇士之像

なりになった関根会長への追悼の思いが  
披露された。岩崎茂理事長による献杯で  
始まった直会のご遺族である白田智子理  
事・村山公一氏の逸話から始まり埼玉偕  
行会、埼玉県隊友会、埼玉防衛協会、大  
東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会、少飛  
会からの参加者で和気あいあいとした雰  
囲気で開催された。最高齢の石田行雄埼  
玉少飛会前会長は命ある限り参加してい  
きたいとのことでした。



挨拶をする岩崎理事長

## 令和五年度回天烈士並びに回天搭載戦 没潜水艦乗員追悼式に参列して

評議員 高松真希

令和5年11月12日に、山口県周南市大津島回天記念館敷地内、回天碑の前にて執り行われた「回天烈士並びに回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式」に参列して参りましたのでご報告致します。

この追悼式は、回天顕彰会の催行により、回天での訓練中の事故で殉職された若者と整備員、回天での特攻で散華された計145人の若者と共に、回天を搭載した潜水艦で戦没された1,154人計1,299人の尊い命に哀悼の意を捧げる式典です。

この式典が催された大津島は、山口県周南市徳山港の沖合い約10kmに位置する離島であり、全国に4つ作られた回天の訓練基地の中の1つがあつた島で、他の基地に先駆けて最初に開設され、今でも唯一当時の施設がその形を残す場所でもあります。

追悼式は令和2年度からは新型コロナウィルスの影響で規模を縮小し回天顕彰会のみで実施されてきたのですが、令和4年度は回天顕彰会と自衛隊のみで挙行され、令和5年度はやや規模は拡大したもの、回天顕彰会、ご遺族（8名の烈士戦没英霊のご遺族約20名）、周南市長、

山口県知事代理、自衛隊、市内外の企業や団体、有志の方々等、計72名の、コロナ以前よりは小規模の集いとなりました。当日は寒い一日とはなりましたが、心配されていた雨は夜明け頃には止み、私が乗船した徳山港7時40分発のフェリーからは、航路の途中で海に掛かる虹が見えたのが印象的でした。

式は定刻11時半に開式のことばで始まり、国歌斉唱、黙祷、そして回天顕彰会・原田会長の式辞が述べられ、続いて周南市・藤井市長、山口県知事代理人による追悼のことば、その後マイケル・メア氏から届いたビデオメッセージが披露され



追悼の言葉を述べる藤井周南市長

ました。

次に献花と同時に自衛隊による追悼飛行が行われ、海上自衛隊小月教育航空群の2機と航空自衛隊第12飛行教育団の2機が追悼式場である回天兵舎跡や訓練基地の上を飛来しました。

御遺族代表の挨拶は、金剛隊・塚本太郎少尉の弟である塚本悠作氏が予定されていましたが、欠席のために代読が行われ、最後に閉式のことばがあり、追悼式は予定より早い12時05分に終了しました。

印象に残ったことを申し上げます。原田会長が式辞の中で、大津島がある周南地方を平和の文化発信地にしたいとの思いで21年間継続してきた「平和の鐘を鳴らそう」という終戦日の行事に、最近では市内の中学生たちも参加してくれているとのご報告がありました。このように次世代へ平和の思いを身をもって伝えられていることに感服し、平和について真摯に考え賛同を示す若い方々の姿に明るい希望と勇気を頂きました。

また、ビデオメッセージの披露があつたマイケル・メア氏ですが、彼は太平洋戦争中に回天の特攻を受けて沈没した米海軍の油槽艦 USS ミシシネワの元乗員で、命からがら海に飛び込み生還したジョン・メア氏のご子息で、御父上が晩年に「回天で命を落とした日米の若者の



ためにも史実を記録して欲しい」と彼に頼み、その御父上の気持ちに応えるべく調査を重ね、ついに平成26年(2014年)にアメリカで「KAITEN」という本を執筆し、令和元年にはこの大津島での追悼式にもご夫婦で参列されたそうです。

そのマイケル・メア氏の奥様が令和5年に急逝されたことに今回のビデオメッセージで触れられ、愛する人を亡くす悲しみに打ちひしがれている時に、私達の悲しみに寄り添ってくれた回天のご遺族の皆様、今度は私たちからも平和と愛を込めて寄り添いたいと、語られていたのも心に響きました。

回天は、人間魚雷です。その全長14.75メートル、直径は1メートル。大型魚雷を改造したもので、搭乗員はこの魚雷の中に1人で乗り込み操縦をし、海中から敵艦に体当たりをする兵器です。

戦況が悪化していた昭和18年に打開策として発案され、昭和19年から出撃を開始しましたが、実戦投入を急ぐあまり、脱出装置はついていませんでした。回天による戦没者の平均年齢は21.1歳だそうです。

大津島には今でも、当時の姿をとどめる場所が幾つも残っており、戦争遺産として貴重であるということから土木学会

推奨の土木遺産にも認定されていると伺いました。

例えば、整備工場から訓練基地まで回天を運搬したトンネルが残っています。このトンネルを使いトロッコで訓練基地に運ばれた回天に、訓練を行う搭乗員が乗り込むと、回天は搭乗員を乗せたままクレーン(基礎部分が今でも残っている)を使って海上に降ろされ、沖合海上に設置してある浮標まで運ばれます。そして訓練支援の隊員が回天の胴体をレンチで叩くとそれを合図に、訓練水域に向けて出発して行ったそうです。

秘密を確保するために、島民が通る道と工場との間はコンクリートの壁で仕切



秘密確保のための仕切り壁

られていましたが、この壁も今でも残っています。

特攻に行くために出撃した場所は、整備工場の栈橋で、そこは現在は小学校(休校中)になっており、その敷地内には、整備工場は姿を消したものの変電所、危険物貯蔵庫、点火試験場等の施設が現存しています。

隊員達はそこから内火艇で沖合に待機している潜水艦まで運ばれ、その後それぞれの目的地に向けて、二度と帰ることのない海路をひたすらに進んだのです。

下士官搭乗員の兵舎があった小高い丘の上には、現在は回天記念館が建てられ、搭乗員や整備員の遺影や遺品、手紙、軍服などおよそ1,300点が収蔵されています。

戦争のさなかに、ここ大津島で、限られた命を感じながらも笑う時は笑い、ある時は重責に耐え物思いにくれながら生きていたであろう若者たち。

現在、回天記念館の前庭には回天烈士の一人一人の氏名を刻んだ碑が建立されており、その向かいには、平和の鐘が置かれています。

平和を誓い、中学生たちがつく鐘の音を、世界の隅々まで響かせられるように努力することが、私たち大人の使命ではないでしょうか。

## 第50回若潮の塔慰霊祭に参列して

評議員 高松真希

令和5年11月23日、瀬戸内海に浮かぶ香川県小豆島の富丘八幡宮内に建立されている「若潮の塔」前にて、第50回となる「若潮の塔慰霊祭」が挙行されました。当頭彰会から石井専務理事、鮎田理事と共に参列させて頂きましたので、ご報告致します。

若潮の塔慰霊祭は、若潮部隊（陸軍船舶特別幹部候補生隊）の犠牲者の冥福を祈り、後世に継承するべく、地元の方々と結束された若潮の塔奉賛会により執り行われているものです。

若潮部隊は16〜19歳前後の約8千人の若者で編成されており、ここ小豆島で昭和19年8月から4カ月間の訓練を受けた後、江田島の幸之浦で部隊を編成し、フィリピンのルソン島、沖縄、台湾方面に赴き水上特攻を敢行した部隊です。

その戦術は、耐水ベニヤ板の1人乗り小型舟艇（長さ5・6メートル、幅1・8メートル、満載排水量1・5トン、最大速度20〜24ノットで、艇尾に約250キロの爆薬を積載）で、当初は敵艦に限界まで接近し、その爆雷を投下するという肉薄攻撃でしたが、研究の結果、体当

たりでなくては効果が期待できないと、体当たり（特攻）を採用したものです。

当時は、特攻であることは極秘であったため、この小型舟艇を「連絡艇」と偽っており、その頭文字を丸で囲ってマルレ（㊀）と呼ばれていたのです。

ルソン島での戦いではマルレの奇襲攻撃が奏功してかなりの戦果を上げましたが、その後、アメリカ軍の警戒が強まり、海上攻撃がそれまでに増して難しく危険なものになっていきました。そのため敵艦に近づく前に発見されてしまい、機銃掃射により多くの隊員が非業な死を遂げたといえます。

また、若潮部隊とマルレを目的の基地へ輸送する際に輸送船ごと撃沈される事例も著しくなり、その結果1,147名が犠牲となりました。

その後広島市に原爆が投下されるとその直後から若潮部隊は救援活動で入市し被曝、あわせて約1,800人が犠牲となっております。

慰霊祭当日は暖かく静穏な天候にも恵まれ、予定の11時から参列者33名で式次第に沿い肅然と開催されました。

今年はい三木宮司から高尾宮司にバトンが受け渡され、気持ちも新たに第50回の節目の慰霊祭を迎える運びとなりました。



若潮の塔前における神事

そこで今回から新たに「黙祷」と「君が代斉唱」が典儀に加えられました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていた直会を4年ぶりに行い、各自有意義な交流が持てたことは、この慰霊祭の団結をより強める良い機会となったように感じました。

ところで、NHKが制作したマルレの番組が令和3年の初回から数回再放送されていますが、この番組を観て若潮部隊の慰霊祭について了知したご遺族が、コ

コロナ禍にも拘らず毎年少人数ながらも増え続けて参列されております。番組の功績に感銘すると共に、ご遺族の方々の思いと行動力、そして慰霊祭を続けてこられた若潮の塔奉賛会の皆様のご尽力に敬意を表します。

小豆島の富丘八幡宮内で、空に向かってそそり立つ若潮の塔の横には、陸軍船舶特幹生の像があるのですが、これは若潮部隊の3人の若者が海に向かって毅然と立ち、湛然不動に同じ方向を見つめている銅像です。私には、この3人は海を見つめているだけではなく、眼差しを日



社務所における直会



本の未来に向けているように思えます。そして今、彼らの見ることが出来なかった未来を、私たちは生きており、彼らの想いと共に、これからの日本の未来を安全で豊かにする使命を私たちは担っているのだと言う思いを新たにしたいところで

多田野語録  
我が人生の詩

會員 多田野 弘

この表題をみて、我が人生の日々をふり返つてみた。根底にあつたのは、魂の悦びである。その端緒は、私の青年時代に得た魂の目覚めに始まつている。

それは、兵役の義務を早く済ませたいという思いから、徴兵1年前に海軍に志願したことに端を発する。入隊の翌日から、予想に違わず鉄拳の制裁を毎日頂戴し、鍛えられた。軍隊というのは、理由がどうあろうと命令には絶対服従という世界であつた。父にも叩かれたことがない私は、口惜しさと情けなさに、毎夜ハインモックに入ると泣けてきた。

何日か経た頃、ふと涙する自分を顧みて、殴られたぐらいでめそめそしている自分に気が付いた。「お前はそんな情けないひ弱な人間なのか、もつとしっかりしろ」という気持ち湧いてきた。「これからは如何に制裁されようとも、進んで受けてやる」という気持ちになつていた。以来、制裁の様相は少しも変わらなかつたが、口惜しさ情けなさが吹っ切れたのである。「心頭を滅却すれば火もまた涼し」はこのことか。その時私は20歳、ひたすら純粹で真剣であつた。

1年間、心身共に鍛えられ、不撓不屈の忍耐力を身につけた私は、勇躍南方の戦場ラバウルの戦闘機隊に赴任した。だが、1年間の訓練などとは桁違いの、毎日が死を前にした壮絶な戦いが展開されていた。その都度、100機を越す戦爆連合の来襲があり、B24が落とす1トン爆弾で、私たち整備員にも死傷者が出た。毎夜、寝につくとき「今日は無事だったが、明日は俺の番かもしれないぞ」と自分に言い聞かせて眠つた。ある深夜、心の奥から「びくびくせずには潔く死ぬ」という声が聞こえてきた。自分の死は、祖国や家族の平安に捧げる崇高な行為で、男子の本懐だ、いずれ死ぬなら前から撃たれて死のうという気になつた。この私に死を受け容れさせたのは、理性ではあり得ず、魂に違ないと思つた。自分が魂の存在そのものであるのを知つた瞬間だつた。心は一点の曇りなく晴れ渡り、不思議にも、弾雨の中を平気で動き回れるようになった。

間もなく部隊はラバウルからサイパン島へ移動することになり、私たち地上勤務員25名余は2隻の貨物船で行くことになつた。ところが、当時すでに海も空も米軍の支配下に帰しており、出ていく船はすべて沈められていた。これまで敵弾

を受けての死は覚悟していたが、船が沈めば如何して死ぬばよいか、泳ぎ疲れての死以外に道はないのかと考えあぐねた。だが、どうにもならぬと、ギブアップしそうなつた時、ふと閃いた。

水中深く潜り、ある深度に達すると、意識を失い苦痛なく死に至るのである。泳ぎ疲れての水死でなく、積極的に力を出し切つての昇天である。これなら自信をもつて死んでいけると思うと、安心して明け方まで泥のように眠つてしまつた。生き延びることを断念できたことが、結果的に魂を目覚めさせ、水中深く潜つて死ぬと教えてくれたのだ。

私たち2隻の船は出航の翌日、コンソリー米爆撃機1機が飛来、投弾してきた。甲板上に立つて「当たるかなあ」と見ていた瞬間、どつと海水が降つてきた。至近弾だ。ふと見ると、僚船黒川丸が直撃され、船先を上にして目の前で沈んでいった。我が船は無傷だったので航行を続けたが、翌日の昼頃、見張り員の「雷跡」の声と同時に魚雷命中、私は轟音と共に甲板上に叩きつけられた。

思わず体を撫でまわし、負傷してないのを知ると同時に、一発目は必至とみて、何も考えずに航行中の舷側から海へ飛び込んだ。行くも止まるも死だったが、不

思議に何の悔いもなかった。船は見る見る内に遠ざかり、太平洋の波間に一人浮いていた。既に、水中で死ぬ手順を決めていたので、決行するには早過ぎる、その時の力を残してゆつくり浮かんでいた。

ふと見ると、いつの間に来たのか、遠方で駆逐艦がカタターを降ろし救助作業しているではないか。急ぎ泳いで行き引き揚げてもらった。水中深く潜る必要なく、サイパンに到着した。なんと俺は運の強い人間か思った。

続く、サイパン、ペリリュー、フィリピン・セブの各戦場でも、これが最後かと思うことが度々あった。その都度、この時こそ死ぬ絶好の機会だと思つて戦つたが、気が付いてみると生きていた。これはどう考えても、何ものかによつて生かされている自分を認めずにはいられないかつた

会社の経営も同様に、絶えず改善に挑戦し続けてきた。なぜこのようなく、苦痛を伴うことを続けてこられたのだろうか。これは理性や意志の強さに関係なく、克己の悦びと魂の快感を知つたからだ。苦難なことを積極的にやりとげた時、自分を統御できた、己に克ち得た人間最大の悦びが出現する。また苦難が大きいほど悦びが大きく、続けずにいられない好循環

環が形成されていった。このようにして、青年期に得られた魂の目覚めが、戦後の生かされた命を、世のため人のために役立てる、悦びに満ちた日々となり、我が人生の詩となつたといえる。

**多田野語録**  
**敬、怠に勝てば吉なり**  
会 員 多田野 弘

表題は、東洋古典にある言葉で、「敬しみの心が怠りの心に勝てば吉なり。逆に怠りの心が敬しみの心に勝てば、その結果は亡びに至る」の意である。と致知誌に解説されている。私には「敬しみの心」という言葉の意味をイメージできなかったが、それは「謙虚である」ということを知つた。

先日この会で「あなたは どうしてそんなに謙虚になられたのか」と、質問されたことを思い出した。その時には、とっさに正確な返答ができなかつた。自分の生虚だなどとは思つたことがなく、私の生き方は少年期から、独立自尊（他に頼らず、自分の道は自分が開く）という筋金入りの信条だつたからだ。

謙虚とは一般に、控えめで、素直なことだといわれている。人間ができて来ると、自然にそういう謙虚な態度や振る舞いができるようになるという。それは、

意図したものではなく、普段の生活態度から滲み出るものである。それを他から見て、謙虚だと言っているだけではないだろうか。

私が謙虚に見えたのは、青年期の3年間戦場で過ごしたとき、自分が魂の存在であることに目覚めたことが根底にある。それは、連日、米機の迎撃戦で私たち地上員にも死傷者が増えていったことに始まる。毎夜、「今日は無事だったが、明日は俺の番かも知れぬぞ」と言い聞かせて眠つた。疲れて眠つていたある深夜、心の奥から「びくびくせずには潔く死ぬ」という声が聞こえてきた。同時に、「自分の死は、祖国と私の家族の平安のために捧げる崇高な行為である」と、悟つた瞬間、「前から撃たれて死のう」と、死を受け容れた。それは、自分が意識して決められることではなく、偉大な力（魂）が働いていると直観した。

それ以来、不思議にも、雨と降る弾雨の中を平気で動き回れるようになった。自分の命さえ投げ出させる魂の力を認めずにはいられなかつた。戦後、先哲の書に、「魂は、肉体に宿り、心と身体を統御・支配する」とあり、魂の存在に確信を得た私は、生活を魂に仕える克己の生き方に一変した。それは、自分を自由に

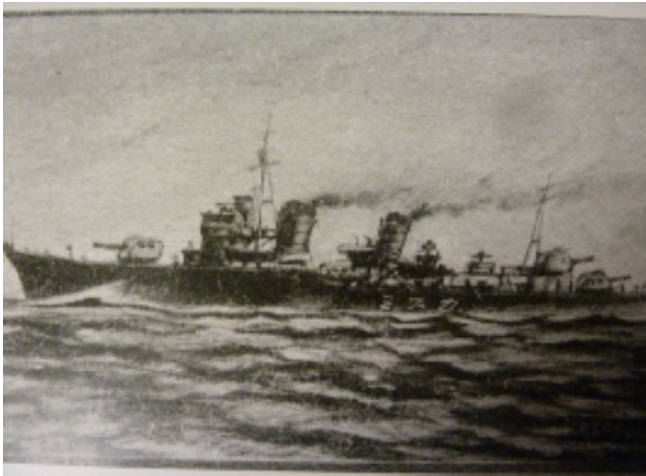
コントロールできる喜びで、快感に満ちていた。

まず、毎朝アラームなしの5時起床から始めた。それが習慣になると、さらに厳しいハードルを自らに課して乗り越えていった。その喜びは大きく、次第に自分の無限の可能性に向かって進められた。それは、他からどう見られるかなどは問題ではなく、克己の快感で過ごす日々の喜びであった。大いなる摂理の基に生かされている「今」に感謝して、魂に仕える克己の生き方が、他からは謙虚に見えるたのではないかと思う。

とにもかくにも、そのような日々が103歳の長寿と健康をつくってくれたのは間違いない。



駆逐艦霞 (イラスト)



特攻隊員へのインタビュー

会員 中川 法宏

沖繩海上特攻4・7 霞  
藤原総助

海軍入隊

その当時男なら兵隊に行くか徴用工員として強制的に軍事工場に駆り出されるかの時代です。男だけでなく女の子も女子挺身隊として駆り出されていました。そんな時代、昭和16年12月に志願して海

軍に入りました。早く入ったら早く帰って来られるとも思いましたが、それまでも支那事変で結構戦ってたし、大東亜戦争始まったから、どちみち行かねばならんだろう。そう思って大東亜戦争始まった知らせを聞いたのち志願したんです。

17年5月1日に広島の大竹海兵団に入りまして新兵教育を受けました。だいぶケツペタ叩かれました。教育が終わってから希望を聞かれるんです。私は航空母艦に乗りたいたいと思って希望を出したら空母隼鷹に乗ることになりましたが、弾薬庫の扉が重くてね。右手の親指を挟んでつぶしてしまい、船から降ろされました。

それで呉の海軍病院にいたんですが、親指の指が腫んできたので治療に一月月ぐらいかかりました。退院して呉の海兵団に補充分隊ってのがあって艦で何人やられたから補充分隊から何人出て来いって具合に人数を補充するんです。私は何回目かに磐谷丸って輸送船に乗ることができました。バンコク航路を走っていた2000トンぐらいの船です。乗員も200人ぐらい乗ってたんじゃないかな。船倉が一つしかなかったからそんな大きな船では無かったですね。広島から糧食弾薬と陸軍の兵隊さんを積んでヤルト諸島(現在マーシャル諸島共和国)ってところでもうすぐ島が見えるってところ

やられました。多分魚雷だと思えますよ。船の後方で衝撃があつて見てみたら船の後方は沈んでました。船が傾いたら滑り台みたいにして海に飛び込むんですが陸軍の兵隊さん、上陸要員ですが、みんな島が近くなつて上陸準備で足に脚絆つてゲートル巻いて重たい革靴履いてましたから泳げないでしょう。だから結構亡くなりましたね。(船員と陸軍南海第一守備隊の戦死者496名、生存者474名)

商船つて船倉の上に木が張つてありますから撃沈されてもその木に捕まれば浮いておられます。私はイカダがあつたのでそれに捕まりました。この商船を護衛していた駆逐艦が助けてくれたんだけど、船から直接縄梯子をおろしてくれましたが、救命ボートなんかは見えてないですね。

### 駆逐艦霞

救助されてヤルート島だと思うけど一度上陸して、駆逐艦だと思ふけどそれに乗せてもらつて帰ってきました。その時に横須賀の水雷学校に行くと命令が出たんです。卒業は年末でした。水雷学校を卒業する時に希望を聞かれるんですがほとんどが駆逐艦です。私も駆逐艦志望で霞に乗ることになり汽車で舞鶴に行つ



空母隼鷹



磐谷丸

て乗り込みました。みぞれの降る日だったね。霞に赴任するにあたって訓示やらはなんにもなかった。海軍は転勤が多いんです。布袋一つで呉鎮内の艦へ移動です。霞では水雷学校を卒業してから行つていきますから2番連管の2番射手です。魚雷には起動弁つてのがあつて撃つ前に起動弁をあけておいて発射すると起動して進んでいきます「起動弁開け！」って号令がかかりますからそれで開くんですね。

霞での最初の仕事は北方の警備です。小樽から陸軍の兵隊をのせて占守島まで輸送しましたがロシアが攻めてくるって考えがあつたんでしょうね。占守島には機関銃や高射砲のダミーがありまして船から見えました。小樽からの輸送は2回ぐらい言ったような気がします。一度輸送船がやられてそれを助けに行きました。寒いもんですから救命筏にしがみ付いてジツとしている人を一人助けました。後の人は沈んじやったんじやないかな。助けた人は全身凍傷になつててみんなで体をなでて体温を戻すようにしたんだけど、この人は腹が破れてて腹からウンチが出るんだね。それが臭いなんてもんじやない。飯がマズくなるぐらいです。

とにかく寒いですから北方では魚雷が凍らないように布団じやないが蒸気を通



駆逐艦朝潮 霞は朝潮型駆逐艦の9番艦

してその熱で凍らないようにしてしました。

北方警備がおわり第2水雷戦隊としてレイテに駆け付けたんですが、この時レイテの作戦も終わって、いつでも雷撃できる体制で夜に到着したんだけど山城が真っ赤に燃えています。敵の船なんか島陰に隠れとったそうです。巡洋艦那智がやられたときジョホールバルに曳航しろって言うんだけど駆逐艦で巡洋艦を曳航できるわけがない。引っ張ってみただけダメだったもんで諦めて那智をお

いてマニラまで逃げてきましたが、ここは毎日空襲があるんだね。明るくなると敵の飛行機がジャンジャン来る。味方の飛行機はほとんど来ない。ベトナムのほうは空襲もなく平穏だったけど。

ミンドロ島には2回ぐらいいったかな。何月頃とかは覚えてないです。船の中から季節がわからない。連管の中は4メートル四方に魚雷が3本あって8人で担当しますが実戦で魚雷を撃つ機会はありませんでした。雷撃戦をやった艦はあまりないでしょう。ニューギニアではいろいろやったようですが。

ベトナムのタムラ湾ってところへ逃げてシンガポールやジョホールバルで駆逐艦に物資や糧食を積み込んだんじゃないかな。マレーシアは平和だったよ。日本人学校なんか作って商社なんか結構行っとったんじゃないかな。眷のタバコが売れるんです。軍服の下にタバコを10個ぐらい隠して上陸して現地の子供相手に売買するんですが彼らもいっぱい軍票もってきていました。華僑ですかね。日本人と変わらない感じのです。タバコが通貨の代わりになることもありました。朝になると現地人がバナナの束を売りにくるので船にあげて運んでもらったこともあります。支払いは軍票でした。こんなの上官に見つかったら怒られますね。青い

バナナも内地に帰るころには黄色く熟れています。道端に乞食がご飯茶碗おいていてね。治安はあんまりよくないらしくて大通りはいいけど「奥のほうにいったらやられるぞ」なんて言われました。この前にサイパンに行ったことがありますが、サイパンって土人ばかりだと思っていきました。ワンス着た女の子がいて珍しかったね。ミンドロ島にも2回ばかりは行ったけど夏なのか冬なのか南方だからいつも夏なんで何月頃に行ったかはわかりません。実戦で魚雷を撃った経験は無いね。敵の2000メートルぐらい手前まで接近して魚雷撃って引き返してくるって聞いてたけどやったことはありません。ニューギニアなんかでは結構やつたらしいけど。

食べる物には困らなかったですね。ジャガイモでも玉ねぎでも船倉に積みきれんからマストの横に積んどったわ。配置についてないときは見張りです。艦橋に行ったりして昼も夜も見張りです。合間に魚雷の整備もせんといかんし大砲磨いたりしとったね。午前中は訓練、午後は見張りです。

南方から引き揚げてくるときに慰安婦を乗せてきました。朝鮮かな。後ろの方に乗せたんですが我々と接せることができないようになっていたんです。慰安婦



を虐待したとか戦後聞きましたけど、それは無かったんじゃないかなと思いますよ。ベトナムだったかな公衆便所みたいな長いバラックが10ばかり並んだの。その前に兵隊がならんどって、一人づつ済ませてでてる。若い兵隊ではなく古い兵隊がならんどったよ。南方から内地に帰るときは敵の攻撃はなかったです。ラバウルなんか敵の飛行機が来るんだけど、こつちから撃つと位置がわかっちゃうから撃つなと言われていました。高射砲陣地なんかもあつただけ。

#### 沖繩海上特攻4・7 霞

柱島から徳山で燃料を補給して艦隊を組んで出たんです。訓示なんかはたびたびだもん。今度は絶対生きて帰れんもんでって話はあつたね。特攻隊だもの。家に手紙を書いて封筒に髪を切つて入れてた者もおつたわ。むしろ若かつたから死ぬとも思わんかつたですね。名前は菊水特攻隊ってのは聞いたよ。

浜風が一番最初にやられたんだ。「浜風がやられた！」って聞いたとき矢矧はまだありました。霞から3000メートルぐらいの距離ですかね。見えましたから。大和を中心に2000メートルぐらいを護衛しながら行くんです。大和は傍におつたけど煙ばっかだよ。機銃や副砲がいつぱいあるから撃つ煙と爆弾が当たっ

た煙があるから煙で大和が見えないぐらい。機銃もカバーが無いからね。霞は3連装があつたけど臨時で単装機銃を35基つけたけどそんなことで応戦してました。それでも銃身が焼けて撃てなくなるからバケツの水かけて冷やしてたよ。連管の中におつてもどうしようもないから俺たちは玉運びだもんね。扇型の弾倉を担いで持つて行って渡したら逃げてくるんですが飛行機が来る合間をみてやりませう。この時雲が低くて雲の間から飛行機が出てきたときにはこちらに接近しているから標準を合わす前に通り過ぎませう。主砲もありますが近すぎると撃てんです。高度1000なら1000に合わせて撃つて時限爆弾みたいに爆発する。大和の主砲なんか一発撃つと20機の敵機を落とすそうだけど近いと撃てん。

霞にも機銃掃射が次から次へとくるんです。敵機が突つ込んでくるから敵の搭乗員が見える。眼鏡かけてニタツと笑っておる。来る敵機は近すぎるから行く敵機を狙うんだけど当たらんね。

対空戦闘の合間に弾倉を運んで機銃員に渡してガシャン、ダダダッ！って感じで撃ってますから無くなるのは早いよ。弾運びしてる最中に誰かがやられて倒れてるのを見たけど、戦争ですから死ぬのが当たり前で「ああ、やられとるな」と

しか思わん。

私たちの船が航行不能になったのは早かつたよ。だから大和がやられる前じゃないかな。私は前のほうにおつたし、大砲も撃つてますからその衝撃もあるし、いつ爆弾が当たったか知らんよ。緊張もしとるし。

大和はえらい斜めになって回つとつた気がするな。煙ばっかりではつきりしたことは言えんけどそんな気がする。どえらい煙がドワツ！と上がった。1000メートルなんでもんじゃないかった。大きな島みたいに見えたもの。見えにくかつたけど真ん中から沈んでた。あんな大きな船が真ん中からちぎれたかなと。弾薬庫に火が付いたんでしようが、弾庫員で助かつた人もいるそうです。船倉に閉じ込められて出られなくなつたけど中の海水が増えたり減つたりしていたからどこかに出口があると探していたそうです。艦の扉にフとかセと書いてあつてフなら普段から閉めとけ、セなら戦時体制になったら閉めとけてことです。霞でもそうでした。

大和が沈んだつて目の当たりにしても若いせいかな今度は自分らがやられるとは思わんだね。航行不能でもあんまり沈んでなかつたしね。冬月が寄せてくれたもんで乗り移つただけけど霞が少し低いぐ

らいかな。冬月がそんなに高いとは思わんだ。分隊士は軍刀をもって移りました。霞が沈められたときは悲しかったね。(冬月により雷撃処分)火柱が上がってみんなで帽振れました。大和が沈んだときも帽振れましたよ。連れて帰るわけにはいかんし敵の潜水艦もウロウロし



坊ノ岬沖海戦の大和(右上)  
手前は駆逐艦冬月。高角砲発砲の瞬間

とるでな。冬月は漂流者の救助をやったと思うよ。むしろはやれやれこれで帰れると安堵しとった。一緒に戦った涼月も沈んだと思っとな。一緒に戦った涼月

### 戦争終わる

帰って来てちよつとの間上陸できたけど、情報が漏れるといかんし遊んどるわけにもいかんで汽車で呉海兵団に行きました。でも乗る船がない。御前崎の先当たりが本土決戦になったら敵が上陸してくる言われとったんで内火艇に魚雷を積んで奇襲をかけるように入り江に穴掘って基地を造っていました。補充兵を集めて穴掘りです。60人ばかりの隊でしたが、私はこの時下士官になりました。ラジオで終戦の知らせを聞きましたがその時の心境は「これで家に帰れる」でした。帰りがかった。家に帰れることが嬉しかったな。軍隊時代に帰ったのはいつペンだけ。作戦に出るとき船の整備や積み込みがあるからその合間に3日ぐらい休暇が出て帰れたぐらいだ。

戦後、戦友会をまとめてくれる人がいないので乗組員で今、何人生きとるかわかりません。鳥取県に安部静雄と川上康雄って仲の良かった戦友がおりました。が今どうなったか。戦後は人の事より自分が食べることで精いっぱいでしたから。

若いうちに兵隊になった者は手に職がない。通信兵はラジオ関係の職にいたよ。うだけど砲術科、水雷科だどつぶしがきかんでね。霞は対空戦闘は何べんもやるとるけど水上戦闘はしとらんでね。水雷戦隊として習ってましたからいっぺんぐらい魚雷撃ちたかったですよ。最終階級は二等兵曹でした。

インタビュー日時  
平成27年5月30日



藤原総助二等兵曹

神風特別攻撃隊第5御盾隊  
鹿子幡為幸



13期予備学生

もともとはこの地域の神社（鹿島神社）

の神主の息子で9人兄弟の9番目です。戦争に行つて帰ってきたら母の弟が鹿子幡家に養子に来てまして後継ぎがいなくて私の所に来て「俺の所に来ないか」ってことで鹿子幡の家に養子に来て今に至っています。もともとの旧姓は神永です。

名前の為幸つてのは大正12年に兄二人と嫁の3人が東京に出て住んで居つたわけですが大正12年9月の東京大震災で音信不通。親父が心配して水戸まで出て行つたけど常磐線が不通で帰つてきた。これが10月12日なんです。その後怪我もなく元気していると兄から連絡が入つたんです。それで私が生まれました。それで災い転じて幸いとなくつてことで為幸つて名前を付けたんです。

軍隊に入る前は茨城師範学校の専門学校の3年生でした。学校も短縮になつてこの時、土浦海軍航空隊に軍隊の体験学習をするのを学校から命じられて私と金沢つて二人が選ばれていきました。徴兵検査では甲種合格してまずし体験学習で航空隊も経験してましたから飛行機乗りになろうと思ひ校長に話したら「我々の務めは教員になつて子供を教えることだから軍隊に行かずに教員をやれ」って

聞かないんだ。でも徴兵検査で甲種合格してまずし、軍隊に行くことは必然ですから海軍の航空隊に行こうと思ひ13期予備学生を志願して合格し、土浦海軍航空隊に18年9月20日に入隊しました。師範学校の卒業式は9月30日でしたから学校の卒業式には出ないで軍隊に入ったんです。

土浦では海軍としての基本の学科、その他棒倒しとか体操なんかやりました。軍隊として特殊なものはモールス信号。これを初めて習いました。師範学校時代はスポーツ選手でしたから体力的なものはやったことありますので復習みたいなものです。でもモールスだけはわからなくて朝から晩までトンツー・トンツーやりました。予備学生は土浦で1800人、鈴鹿で1800人入りました。この18000人を9つに分けて9分隊、私は9分隊でした。この18000人が大きな部屋に集まつてみんな訓練するんです。指導するのが上等兵曹。私たちは准士官待遇ですからヘマやつても叱るわけにはいけません。9月に入つて12月になるころには一分間90字を打てるようになりましたね。土浦の訓練終了前、遠足があつて水戸の講道館に行くことになりましたが、私は水戸に育つて水戸の師範学校に行つ

第五御盾隊  
昭和20年8月13日台湾高雄基地飛行指揮所前にて  
二列目左から3人目が鹿子幡大尉

てましたから講堂館の事はよく知ってたわけです。それを上官に行ったら「それなら今日は面会してもいい」ってことで親に来てもらって面会したことがありません。

基礎教練が終わると大井航空隊に転勤になりました。ここでの訓練は白菊に乗りまして航空航法です。水平爆撃の訓練などもやりましたが主として航空航法です。昼間なら太陽を測る。航空図ってのがありまして何時何分に太陽はどこでは何度で見えると計算ができるんです。実際に計ったらやや低いとか、それなら別の位置で計算してみても、自分のいる位置を割り出すんです。夜ならば月とか星を見ます。最初は飛行機ではなくトラックに天幕をして乗せられて外が見えないようににされます。どこかわからないようにはです。1時間か2時間走って降ろされてここで測って、うまくいけばよしです。その後白菊に乗っての訓練になり、この訓練を終了した19年6月に海軍少尉任官になりました。将校服をもらって短剣をもらって2泊3日の休暇が出たので家に帰り親父に報告しました。家では一泊だけしてすぐに次の配属先、高知航空隊に向いました。

高知航空隊に行くと言わると

いつて青年将校は個室が与えられて、そこに住んで従兵がついて身の回りの世話をしてくれます。もともとは砲台の近くに寄宿して指揮をとったからそう呼ばれるようになったそうです。将校は総員起しから吊り床下ろしまで一日の日課の責任者ですけど、軍隊のこと知らないで行ったから、これが大変なんですよ。なれたって部下のほうが軍歴が長いんでから。当直将校は大尉で軍の事はわかってる方ですが我々は少尉で大尉の命令を受けてすべてやるんですがヘマやったりして大変でした。だけど一カ月もしないうちに慣れてだいたいできるようになりました。今度は白菊で海上上空を航行して定観測船といって海の上に民間の船を買って上げたんでしようが定観測船で行ってバンクして帰って来る。船には民間人が乗っていてバンクすると反応がありますよ。異常なしで帰ってくる。あの時はまだ敵の攻撃とかなかったですからね。この時は予科練上りの上等飛行兵曹が操縦で偵察員が将校の私、二人での訓練でした。

高知空に着任してすぐ補充兵が入ってきました。子供がある年の人たちです。この頃はそれぐらいの人を招集する時代だったんですね。その人たちですが文字

の読み書きができないんです。だから子供から手紙が届いても読めないし、飛行機の部品やなんかの名前もわからないから飛行隊長に呼ばれまして「神永は師範学校出だから教えてやってくれ」そういうわれました。そこで私は高知師範学校に行きまして校長先生に「こういうわけに勉強を教えるんです」と説明して一年生から六年生までの教科書を借りて、夜、補充兵を集めて文字の補習をやりました。今まで勉強してこなかった人たちでしたけど熱心でしたね。一生懸命やりました。私も楽しくなりましたね。補充兵が「分隊長、手紙を書きましたので聞いてください」なんて家族への手紙を聞かされたこともあります。全く軍隊とは異なる時間でしたけど気持ちとしては和やかな時間でしたね。

### 陸上攻撃機 銀河

こんなことをやってるうちに昭和20年1月、転勤を命じられまして木更津の攻撃405飛行隊、銀河の実戦部隊ですね。

ここに配属になりました。ここは私たちの様な実戦の経験のない者もいれば真珠湾攻撃に参加したベテランもいる新しい部隊です。ここに高知空からは私一人が転勤になりました。

最初は離着陸から始まって一生懸命に

やりましたよ。今までは速度の遅い白菊で訓練でしたが銀河は最新鋭の実戦機です。銀河での私の仕事は前の機銃と航法です。機銃は前から戦闘機が来るなんてないから撃つたことないですよ。狭いのですし。後方の旋回機銃は旋回させて撃つのではなく、敵の飛行機の動きを予想して撃つんです。木更津での訓練を終えると宮城県松島空で急降下爆撃の訓練をやりました。爆弾投下の指示は私がやるんです。「目標〇〇！爆撃開始！」急降下して爆撃後に機体を引き上げると圧力がすごいですよ。顔がひきのぼされる感じです。急降下爆撃は2キロ爆弾でやりましたが、爆弾が降下していく角度は800キロ爆弾と変わらな

いようなつくりをしていました。急降下爆撃の訓練が終わると木更津に帰って来て今度は雷撃訓練をしました。魚雷の場合には本物と同じで爆薬の代わりに同じ目のコンクリートです。東京湾に目標艦の速風が航行していて魚雷を投下するんですが、魚雷の深度が深く設定してあるので速風の船底を通すれば命中扱いになります。上から見て「よし、当たった！」とか魚雷がそれでダメだったりとわかります。

木更津には別の飛行隊もいて食事は飛

行隊ごとに行います。朝、硫黄島に爆撃に行くのを見送ってから私たちの訓練に入るんですが、昼、食事の時、帰って来なかった飛行隊員の名前が赤い名札になっていて飯が残ってるんです。それが多くなってくるかと残った者は別の航空隊について編成しなおされます。

雷撃訓練の時、雷撃の態勢に入ったら魚雷が無い。照準器で確認しても魚雷が無いんです。空港に帰って報告したら「お前がやったのか！」って言われました。横須賀通信学校の裏山に魚雷が投下されて空襲警報が出ていました。恐らく安全装置を外した時、あやまって投下ボタンに手が触れてしまったんだと思います。えらい失敗をしたので懲罰を受けると思っていました。雷撃訓練が終了すると松島へ帰ることになりましたが私は魚雷投下の失敗があったせいか、飛行機ではなく夜行列車で整備兵を指揮して帰ることになりました。松島に帰ったらえらい騒ぎになってました。先に飛行機で帰った中の一機が霧で視界を見失い松林に激突して5人が殉職していました。私はへまやっただけで命拾いました。私はへまです。銀河って飛行機は故障が多いうって聞いてました。私には故障があつたことがな

いですね。乗る機は常に自分の飛行機で乗り込むのは私を入れて3人。私以外は予科練の甲斐一飛曹と福本一飛曹です。上下関係なく仲良くしていました。

昭和20年4月16日に沖繩の伊江島に敵が上陸して守備隊が全滅、飛行場が占領されました。405飛行隊も松島から鹿屋に進出し、伊江島の敵を攻撃することになり、夜間黎明攻撃に連夜出撃するんですが護衛の戦闘機はなしで単機攻撃です。高高度で伊江島の飛行場に爆弾を投下して帰って来る。しかし間もなく4月29日、松島への帰還命令がでました。緊迫の度が高まるのを覚えました。

#### 特攻隊へ編入

5月1日に松島空へ帰ってきたら「本航空隊は特攻隊に編入された。」と飛行長から話がありました。この頃は特攻隊以外、有効な攻撃方法がなかったんでしようね。私もそんなふうを受けとめておりました。「希望しない者は申し出よ」とも言われましたが申し出た者はいないですよ。まあいろいろ考えがあるんですがこの頃は生きて帰るって気持ちには無くて、いつかはどこかで戦死するという気持ちがありましたからね。自分の荷物、通帳から軍服から海軍行李につめて送り先を親父の所にして預けてきまし

た。このとき一泊の外泊が許可されましてが頭の中には特攻隊になったことがありませんが、特攻の話をするには許されないわけですから、気持ちが悪んだというかそんな気持ちで帰ってきたと思います。この時預けて会った荷物は戦死したら送るはずだったんでしようが戦争が終わって実家に帰ったら届いていましたよ。通帳も入れておきましたから基地が移動になったら主計官に頼んで借金してその金で酒飲んでました。

5月3日にウルシーの敵艦隊を攻撃する予定で木更津基地に進出しましたが、先にトラック島が空襲に会い被害が出ました。私たちは先にトラック島で給油してそれからウルシーに突っ込む予定でしたがトラック島がやられたらそれができないんですよ。そこで鹿屋に移動になり、編成表が発表されましたが私はそれから外れてたんです。要するに未熟だったからでしょうね。7日朝、25機の特攻機を帽振れで見送りました。この時の心境なんて今日行かなければ明日行くわけですから。

この時は一機が離陸に失敗、一機が自爆、5時間ぐらいして沖ノ島島を通り過ぎたあたりで敵の偵察機に見えられたので

作戦中止になりましたが、一機が帰らず帰隊したのは22機でした。

13日に九州南部に敵機動部隊を発見の報が入り、神風特別攻撃隊第4御楯隊が編成され、私は第2小隊の一番機になったわけです。14日朝8時に800キロ爆弾を2発、爆弾の羽根の部分の部分を切つて安全装置を外した爆装で第1小隊が一番機から三番機まで飛び立っていくんです。次は私の機ですから滑走路を走り出した時に敵の艦載機から攻撃を受けたんです。エンジンを止めて脱出して機の下に隠れました。幸い無事でしたが高射砲がそれだけ有効だったんですね。飛行場の側から考えると滑走路が大事なんです。爆弾おちたら離着陸できませんからね。そうするとどの角度で敵が侵入して爆弾を落とすと効果的かわかりますからそれを逆算して高射砲を向けておくと爆撃体制に入った敵機は高射砲で落とされるんです。この時私たちは滑走路にいましたけど、滑走路には爆弾一発も落ちなかったです。敵は一機撃墜しています。この日の特攻攻撃は中止になりました。

5月20日、19機の銀河で「神風特別攻撃隊第10銀河隊」が編成され島根県の美保基地に進出しました。到着すると「30分待機」の戦闘態勢に入りました。これは30分以内に出撃できる体制を意味しま

す。朝3時に起床して飛行機のエンジンを温めて飛行機の下で弁当持って待ってるんです。そうすると10時ごろ「本日の攻撃取りやめ！特攻隊解散！」と放送が入りますから解放されます。みんな金ないけど主計の所に行つて金借りに行くんです。主計からは「戦死したら報奨金が出るからあてにしていぞ」って言われたもんだから金借りて美保にあった海軍のクラブに行つて酒飲んだり軍歌歌ったりしました。「特攻隊解散！」の放送があると「今日も1日生き延びたなあ」と思いましたよ。仲間には割りばし3本立てて占いやつてる兵隊もいましたな。特攻隊の心境つてのは言い表せませんよ。

#### 特攻出撃からの生還

25日は機動部隊発見の放送が入り第10銀河隊のうち12機に出撃命令が出ました。朝4時に搭乗員が指揮所前に集合し、このとき、706空の司令が来まして攻撃の説明があつて水杯を司令が注いでくれました。「成功を祈る！乾杯！」それが終わつて「搭乗員配置に着け！」私は第3小隊の一番機として出撃しました。滑走路の端に残りの搭乗員が帽振れで見送つてくれ中国山地に白い雲がかかっています。それを抜けると呉上空あたりです。それから「そろそろ海兵の上空だな」なんて思いました。四国を縦断し種子島あたりまで

は快晴でしたので敵の戦闘機に警戒しながらの飛行です。このあたりで出撃前に持参した弁当を食べることにし、伝声管を通じて甲斐、福本兵曹と話をしました。「お世話になったなあ」「こちらこそ」そんな会話をして弁当を食べました。絶望感は無かったですが、自分の死後の日本が見てみたいとは思っていません。いよいよ敵上空あたりまでは来たんですが雲が立ち込めてきて雨が降ってきました。こちらは超低空飛行ですから敵発見の望みは無くなつて来ていて燃料も少なくなってきたので引き返すかどうか考えていたところに「○小隊○番機、天候不良にて引き返す！」と電信の福本兵曹から報告が入ったので私も機長として引き返すことを決意しました。「0度ヨーソー！」引き返して雲を離れて宮崎の空港に爆装したまま着陸しました。本来なら3000メートル以上上昇して爆弾を投下しないと自身が爆風でやられてしまいます。しかしそこまで上昇するとその分燃料食いますから悩みましたよ。本来、爆弾の先にプロペラがついていて投下するとペラが回って信管が抜け爆発するので空気の抵抗を爆弾に与えないようにしなければいけません。操縦の甲斐兵曹に「爆弾を抱えたまま着陸できるか？」と聞いたら「大丈夫です！間違いない降ります！」

彼も覚悟を決めたんじゃないですかね。それで宮崎空港に着陸したんです。宮崎に着陸し指令所に行つて「こういうわけで帰ってきました」と報告したら「じゃどうしますか？」「美保に帰投します」で昼ごはん食べて爆装解いてもらつて燃料の補給をしてもらつて午後3時に美保に帰ってきたんです。そうしたら他の出撃した連中も天候不良が理由で一日二日して帰ってきたんですよ。帰つて来なかったのは一機だけ。美保に帰つて報告したら当直将校が「隊長機が突っ込んだぞ」と言われました。隊長機だった長谷川中尉の一機が帰つて来なかった。私はこの話を聞かされたときむかつきましたね、どうせまた明日行くのにこんなこと言われなくてもいいと思ひました。その気持ちを察したのか「とにかく休め」と言つて解散になりました。戦後わかつたことですが長谷川中尉は駆逐艦キヤラハンに突っ込んだんじゃないやなくて撃ち落とされ、長谷川中尉は飛行機から投げ出されて海に浮かんでいるところを捕虜になつて戦後帰ってきました。

#### 台湾にて終戦

このあと木更津に移動になり3部隊による魁作戦が用意されました。「魁作戦準備」が発令されました。これは一式陸攻60機に陸戦隊を搭載しサイパンの敵飛行

場に強行着陸しB29を焼き払う剣作戦、爆装、銃装した銀河36機で敵飛行場を攻撃後、強行着陸し陸戦隊となつて戦う烈作戦、銀河25機に800キロ爆弾二発を搭載し、レイテ湾に集結している敵機動部隊、輸送部隊に特攻をかける丹作戦と割り振られ私は丹作戦に参加することになりました。集められた飛行機を見て「今の日本にはこれだけしか飛行機がないのか」と思ひましたし、「この作戦で戦死して日本も終わるのか」とも思ひました。剣作戦は陸戦隊も準備しなきゃいけないから少し時間がかかるし烈部隊も艦載機の攻撃をうけたので私たち丹部隊が一番先に移動になりました。8月2日、丹部隊は神風特別攻撃隊第5御楯隊と命名され、石川県の小松基地に移動し、そこから単機づつ台湾に向け進出して行きました。私は8月9日に小松を出て台湾に向かいましたが8月9日は長崎に原爆が落とされた日で、その報告のための敵戦闘機が来てたんですね。「こりゃいかん！」と海面すれすれに低空飛行して逃避しました。海面を飛ぶと敵機は自分が海に突っ込んだじゃうから追つてこれないんですね。逃避して中国のまで行つたら大地が緑じゃないんですね「黄河つてのはこんなにも黄色いのか。よし180度！」南下して台湾まで行つて台湾の岡山にあ

る高雄空に到着しました。この台湾進出で撃墜されたのが3機、出撃見合わせが4機あったので第5御楯隊で台湾に進出したのは19機になります。

台湾に行ったら「魁作戦警戒」ってのが発令されました、敵が本土上陸部隊をレイテ湾に集結させることを想定して、それを調査するため毎日レイテ湾に自動カメラ搭載の銀河で偵察飛行を行って敵機動部隊の集結をうかがっていました。そんなことしていると8月15日に「総員集合！」がかかったんです。兵舎で放送が聞けるようにして聞きました何が何を言ってるんだかよくわからなかったですが負けたんだと察しました。

復員  
帰国は5、6年かかると言われてたんですがリバティ船が来たので案外早く帰ることができました。3月9日に乗りました。船に乗る前に中国兵から写真やらいろいろ取り上げられました。リバティ船ってのは鉄板溶接して継ぎ足したような船で甲板の下が荷物室でそこに詰め込まれました。しかもスクリュウの回転軸の上に鉄板を張ってあって隙間からスクリュウが見えるんです。寝るときは船内にいて朝になると甲板に出て海を眺めてきましたが、粗末な船に詰め込まれて帰ってきたんですから負けるってのはこんな

事なんだと感じました。私は幸い船酔いしなかったですが船酔いする人はけっこうあったんです。飛行機酔いってのがありますが私は経験してません。私の体は器用にできてるんですね。

14日に宇品につきましたが下船させてくれない。翌日頭から白い粉をかけられてね。今思えばDDTですね。それで上陸となり各々が全国に帰って行きました。私も水戸に着いたら水戸の戦災を知らなかったのであるはずの師範学校もなくなっていました。

実家に帰って親父に「ただいま戻りました」そう報告しました。私の兄たちが海軍省に行つて私の所在を調べたら台湾で生きてることが分かったので生きて帰つて来ると期待してたんですね。親父は「しばらく休め」

帰って間もなくして鹿子幡の家の養子になりました。ここは結核で子供をなくしていて、もう一人も海軍入つて吊り床吊る時に落つこちた怪我がもとで亡くなつて後継ぎがいなくなつた後私が帰つてきたから「お前、うちに来ないか」って声をかけられて「じゃあ行きますよ」「では明日来い」って家もすぐ近所ですからね。

最終階級は大尉、終戦の時の大尉です。海軍生活は短いものでしたが結論として、

これを了として喜びとすることである。いまでもそう思っています。生きて帰ってきたんだからいろいろあるけどいいじゃないか。いろいろ貴重な経験をさせてもらいました。

インタビュー日時 令和元年8月11日

参考文献

海軍時代 私家版

神風特別攻撃隊の記録

海軍編  
光人社



鹿子幡為幸大尉



神風特別攻撃隊 龍虎隊  
常川昭吾上等飛行兵曹

三重海軍航空隊

5人兄弟の5番目で私だけ昭和生まれです。名前の昭吾ってのは昭和生まれの5番目って意味です。予科練に志願した当時はまだ津中学校の3年生で私が一番若くて昭和3年生生まれってのは本当に少なかったんです。本当は年齢達してないんだけど入隊する18年4月1日に達して

おればいいってことで試験受けさせてくれました。学科試験は津でやった覚えがあります。

三重県の者は一回津に集まって香良洲にある三重海軍航空隊に入隊し基礎訓練を受けました。32分隊の4班です。ここでは主に体力づくりなんですが、当時中学校でも教練って陸軍の将校が来て訓練するんですが敬礼なんかでも陸軍式なんです。香良洲ができたのは17年ですから建物なんか新しくなかったですね。



鈴鹿海軍航空隊にて

たですね。

香良洲にいたのは半年です。約800人が入ってそのうち戦死したのが300人です。操縦と偵察に後に分かれますが、半分半分ぐらいだったと思います。操縦は山口県の岩国まで行って操縦適性検査を受けて操縦合格したものが三重空の奈良分遣隊に行きました。赤トンボですが飛行機は離陸

と着陸が難しいんです。ですから後ろに教官が乗ってて教官がそれをやってくれて飛んでる時に「右旋回！」とか言われますから操縦桿を倒して感覚をつかむんです。鈴鹿でもやりましたな。この写真(上段)も松阪のライオン写真館が撮ってくれたものです。軍のお抱えの写真館でした。

当時の松阪の川井町は愛宕町と一緒に遊郭がありましたんさ。そうやで練習生は街に入れんです。他の水兵さんは入れますけどね。でも私は実家が川井町から証明もろて帰ることができましたんさ。松ヶ崎って駅があるでしょう。あの次が松江ですがそこで降りとったんですな。(近鉄伊勢線松江駅 昭和36年伊勢線廃止により役目を終えた)三重空は津から松阪までが外出区域で伊勢とか四日市までは行くことができませんでしたな。この時一人一円ぐらいの手当てが付きました。そんなことしてる間に予備学生も入ってきました。彼らは7つボタンやなくて士官の制服着て短い短剣も吊ってましたね。19年の正月は休暇がありましたな。あの時は奈良に行っていましたかな。練習生時代に外地の情報は入ってこないですな。教官から聞いたこともないです。今なら笑い話ですけど19年に卒業して南



奈良分遣隊5分隊（常川氏二列目最左）

方に行つたんですけど三重県は呉の管轄になります。内地の親の手紙を書くときにフィリピンとか外地のいると書くとき場所がわかるもんだからみんな呉局気付で出してみました。呉の郵便局を訪ねてくの方もおつたそうです。

### 南方へ移動

三重空を卒業して奈良分遣隊に行きました。ここは海もないし飛行機もない所です。宿舎は天理教の宿舎に泊まってました。

10月に天理に行きましたが13期がやは

り10月に天理に入ってきました。教員が足りんもんで教員の助手みたいな形で指導しとつたんです。手を広げすぎてまともな体制じゃないんです。私たちが天理にやらされたのは甲、乙、丙とあって甲は中学校3年から乙は尋常小学校高等科を出てからですから年齢はあまり変わらないんです。でも片方は試験受けて旧制中学に入ってますから進級が速いんですわ。ですから夜なんか甲と乙が殴り合いの喧嘩するんですな。それがあつたもんで分けたんでしような。奈良空はみんな甲でした。教官は普通の兵科の人も多かったです。飛行機乗ったことない人も多かったですよ。兵士としての訓練でしたら飛行機いらないうすから。19年の3月まで奈良空においてそれから私はフィリピンの飛練に行きました。

長崎の港で船団組んで行つたんです。

輸送船です。その時練習機も積んでいきました。貨物船の甲板にそのまま飛行機おいてある状態です。船団には護衛も付いてくれてたし貨物船でも機銃ぐらひはあります。見張りなんかもありましたが幸い敵の攻撃は受けなかつたです。

サラングニつて島だったと思うんですが、トイレなんか穴掘ってしますけど一杯になつたらくみ取らずに埋めて、ま

93式初等練習機（通称 赤トンボ）  
写真は水上飛行機仕様



た別の場所に穴掘るなんてしてましたな。

教官一人につき5人6人の生徒がついて訓練です。11期生もおりませんので12期だけが練習してました。教官が後ろに乗って生徒が前です。前と後ろのやり取りは伝声管を使ってやりませんが距離が短いですから後ろが棒でも持つてたら生徒の頭叩くこともできますな。赤トンボは布張りで機体が軽いから風に流される

こともありました。交代で乗って訓練しますから一人当たり一回の飛行時間は半時間もありませんやろな。私らが教えてもらった教官は真珠湾攻撃の時は整備兵だった方でその後操縦に転化して教官された方でした。名前も忘れてしまいました。飛行時間は短いですな。

サランガニはもともと、本当の飛行場じゃなかったんですな。飛行練習中に牛が出てきたりしたこともあります。もとは牛を飼ってる所だったそうです。ただの草っぱらで滑走路はありませんでした。現地人の使役なんかもおりませんでした。ここでの訓練では宙返りとか背面飛行などの特殊飛行もやりましたな。

サランガニの飛行場で訓練が終わっていったんマニラに船で帰ってきたんです。だいたい距離があるんですな。マニラまで直行できませんから途中何か所かで止まるんですが現地人が小さい船で「アナタサン、バナナヨ」なんて売りに来るんですな。途中で敵潜水艦からの魚雷攻撃を受けたことがあります。蛇行してかわすことができました。船から見てたら魚雷のプロペラが見えるんですよ。この時乗ってた船が韓国の船だと聞いたことがあります。マニラに行つたのはシンガポールに移動するための船を待つ

てたんです。ここでも敵の攻撃なんかもなかったですな。私の時は敵の潜水艦も少なかったのか大丈夫でしたが一つ下の連中なんかは魚雷にやられて泳いだなんて話を聞かされました。

シンガポールに着いたのは秋ですが何月だったかはわからんです。いつでも暑いから日本みたいに四季がないですから私がいいたのはジョホール水道ってところにおりましたんや。セネタの飛行場だったかな。当時のシンガポールは昭南島って呼ばれてて私も外出の時、昭南社にお参りに行った覚えがあります。ここは元々イギリス統治でしたから風呂なんかでも日本みたいに首までつかるとかなくてシャワーばかりです。シャワーでは風呂入った気にならないから作ってくれて作ってもらったことがあります。町なんかでも中国系の華僑の店が多かったですな。

ここでは実用機教程になつて操縦したのは零戦です。サランガニを卒業する時に戦闘か爆撃か攻撃か希望を聞かれるんですけど私は戦闘を希望しました。戦闘機はシンガポールで爆撃機や攻撃機に行つた者は別の飛行場に行きました。シンガポールでは模擬戦闘なんかもやりましたけど、きちつとしたものないままジャワのジョ

グジャカルタに行かされました。零戦も練習でのつてたものが実戦で使うからなくなっていくんですな。ジョグジャカルタについてみたら練習機ばかりで零戦はありませんでした。そうしたら私の中学の同級生が13期にようけ入つたんで「お前もきたんか！」ってここで再会しました。

#### 台湾虎尾で特攻編成

特攻は志願ではないですな。台湾の虎尾が特攻隊の練習基地だと上の人は知つとつたんですけど我々は知らない。

虎尾には20年6月にダグラスに乗つて行つたんですけど私らが着陸する前に虎尾の飛行場で事故をやつてましてな、連れが「おい、事故やつとるわ」って。このダグラスは椅子が取っ払つてあつてゴザが敷いてありました。事故を見ようとみんなが左に寄つてしまつたから機体のバランスが崩れるからえらい怒られました。たわ。「お前らも飛行機に乗つてて素人じゃないんだから着陸前に片方によるな！」なんて怒られたけどダグラスみたいな大きいのに乗つたことないでしょう。練習機と零戦に乗つただけでね。

ここについてから飛行隊長から特攻隊だと聞かされました。特攻だと聞かされて死ぬのが嫌だからとは言えんわな。特

攻隊でも隊によつて考え方が違いますね。長男や一人っ子は外す配慮もあったそうです。赤トンボでの特攻は行く者としては納得いきませんが飛行機がそれしか無いからしょうがないですな。

赤トンボでの訓練も4000メートルぐらいまでなら大丈夫です。ここから特攻急降下の訓練をやりました。今までは二人で乗ってましたがこの時の訓練では一人で乗って訓練しました。

7月18日に同期生の出撃を見送りました。先に台北を経由して宮古島へ行つてそこで爆装して突っ込むんです。私らより先に艦爆に乗つた連中が来ていたので艦爆出身者が多いんです。見送るのはつらいですわ。手がちぎれるぐらい手を振って見送りましたな。当時の虎尾は日本の製糖会社があったので、その社員の方、家族の方も見送りに来てくれました。私も休みには製糖会社の宿舎に遊びに行つてました。松阪出身の方もおりましたな。

この時、月に一回しか出撃しませんでした。3機編隊が二隊で6機。私らみたいなのが何人も待機してました。しかし布張りの飛行機で爆弾付けたらスピードも出ないから操縦する方も大変だったでしょうな。

## 終戦 復員

終戦は玉音放送を聞いて知りました。

終戦の月の月末に突っ込む赤トンボに爆弾をつけに行つとったんです。虎尾でみんな見送りますよね。その時に爆弾も何もつけてないと恰好悪いから小さいのをつけるんですわ。そうしたら「玉音放送があるから士官室に集まれ！」って命令があったんで私ら集まって聞いたんです。内地でも内容がわからん放送ですから台湾では何か全然わかりませんでした。

戦争終わったけど隊でもめることもなく台南に移動になりました。終戦の心境は「助かったなあ」

台南から高雄に移動してそこから帰ってきました。復員船に乗る前に持ち物検査があるんですけどアメリカ兵が来なくて中国兵が来たんです。奴らは漢字がわかるから都合の悪いこともありました。着のみ着のまま復員船にのって中はみんな雑魚寝です。私らは飛行靴履いてました。寝てる時脱いでます。朝起きたら盗まれてました。21年2月に広島の大竹に帰ってきました。私ら、ずっと南方にいましたから着る物が夏物ばかりでしたから着る物は上の人が交渉してくれました。最終階級は上等兵曹です。勝つた方も負けた方も傷つくし、戦争はいか

んという一言ですな。

インタビュー日時

令和元年6月29日



常川昭吾上等飛行兵曹

連載山ある記25 千葉県「烏場山」

会員 池田 康博

烏場山（からすばやま）を知ったのは、吉田類さんの「日本百低山」という番組である。外房線の和田浦駅をスタートし、花嫁街道を歩いて、標高二百六十六mの烏場山に至るコースであった。

花嫁街道とは、昔からあった海辺と山間の部落同士の交流の道で、花嫁行列もこの道を通って嫁いで行ったということから、近年、この名を冠して、一周8.7kmのハイキングコースを整備したもののようだ。

花嫁街道という、興味をそそる名称もあって、12月中旬、車で向かった。花園海岸の市営駐車場に駐車して、花嫁街道

花嫁街道入口



入口まで歩いて20分、9時43分にスタートした。「街道」とは名ばかりの、一人一人が通れる山道に入って、標高四百四十m位まで緩

やかに登った後は、平坦な道あり、ちよつと登って尾根歩きありで、およそ標高二百m前後を上り下りしながら歩くこと1時間4分、「駒返し」という地点に着いた。

真つ直ぐ進めば、花嫁が下った道だと思われるが、右折して烏場山に向かう。途中のカヤバには十五、六名のグループが休憩をしていた。太平洋が眼前に広がる見晴台である。

更に進むとベンチが整備された第三展望台があつて、ここで小休止。房総の山々を眺めた後、出発。最後は40段ほどの階段を上って11時25分、烏場山山頂に到着した。

山頂からの景色は素晴らしく、太平洋も勿論であるが、この日は、雪を頂いた富士山が美しい、そしてグッと手前には特徴的な山

山頂から富士山と伊与ヶ岳



は特徴的な山の伊予ヶ岳が鎮座している。11時31分に三角点にタッチして下山開始。下りは、上りと反対側の花婿コースと

黒滝



いう道を下る。標高百七十一mの見晴台で太平洋を眺めながら昼食を摂り、標高二百一十一mの金比羅山からは約90mの急激な坂を降って、黒滝のある長者川の川岸に着いた。黒滝は落差15m、烏場山からの流れが長者川と合流する地点にあり、辺りは何やら幽谷の気配がする。登山道は、この滝の前を横切って伸びている。川沿いに飛び石状に置かれたコンクリートブロックや橋を渡って、13時20分に花嫁街道入口に到着した。時間、距離の割に大きな疲労感もない山歩きだった。

なお、黒滝に下りる階段の途中に、「広西坊入定窟」と書かれた岩窟と、小さな社があつた。彼は「元助」といい、赤穂浪士、片岡源五右衛門の下僕で、主の切腹後、出家し諸国行脚の後、晩年を和町花園で過ごしたという。余命を知り、この岩穴で断食、入定した。下山後に知ったことである。（令和4年12月19日）

顕彰譜 (13)

会報134号から始めた特別攻撃隊全史第二版の顕彰譜の  
ご紹介第十三回目です。

陸軍航空  
若鷺の碑  
(大津陸軍少年飛行兵学校)



少年飛行兵第15期以降の特攻戦没者は111柱で、その中に大津出身者が含まれている。

若鷺の記

大津陸軍少年飛行兵学校は、太平洋戦争が苛烈の度を加え、その戦域が益々拡大された昭和十七年十月、航空戦力増強の要請に応じ、東京陸軍航空学校大津教育隊として此の地に開設され、翌十八年四月、大津陸軍少年飛行兵学校に独立した。

当時十五・六歳の少年たちは、祖国存亡のとき、陸軍航空の期待と栄光の重責を担い「至誠・純真元氣・周到」の校風のもと、炎熱の朝、酷寒の夕、琵琶湖畔に、長等山麓に、幹部要員として徹底した一カ年の基礎訓練に励んだ。その数、第十五期生から第二十期生に至るまで八千有余人。ついで、操縦・通信・整備の各上級学校に学び、若鷺となって大空に巣立ち、北辺の空に、南溟の果てに、本土防衛のさきがけとなって愛機と生死を共にした。

昭和二十年八月、戦いは終り、これらの出身者、また未だ学業半ばの者は、ともに全国に離散し、本校もまた其歴史を閉じた。

往時茫茫、戦後三十年。教えし者、教えられし者相つどい、かつて青春のすべてを抛げうった想い出深きこの地に、永遠の平和を願って、茲に「若鷺の碑」を建立する。

昭和五十年十月十二日

大津陸軍少年飛行兵学校

関係者一同

所在地

滋賀県大津市園城寺町園城寺  
(おんじょうじ) 三井寺境内

建立

昭和50年10月12日

陸軍航空



## 陸軍特別操縦見習士官之碑

### 陸軍特別操縦見習士官の頌

昭和十八年七月三日勅令六五五号により、「陸軍航空関係予備役将校服務臨時特例」が発令されて、続いて勅令七五五号「在学徵集延期臨時特令」が発令され学生の徴兵猶予の全面停止となり「学徒出陣」となった。大東亜戦争で航空機操縦者の補充に苦しんだ陸軍は素質的に充実した大学生を操縦者として第一線に投入するため特別操縦見習士官制度を創設し、救国の期待をかけた。大東亜戦争が転機を迎えた昭和十八年10月1日一期生二千五百余の若人は学業をなげうち陸軍特別操縦見習士官として祖国の危機に立ち上った。二期三期四期と続き、ペンを操縦桿にかえた学鷲は、戦局急迫し祖国まさに危急存亡を迎えた時、特別攻撃隊の主力となって決然として、比島、沖繩、本土、の護りに殉じ、特別攻撃隊として、敵艦船、航空機に体当り攻撃突入した総数は一、二、三、期生三二六名で三期生は五名任官以前見習士官のまま悠久の大義に殉じた。

### 建立の由来

陸軍特別操縦見習士官出身者は戦没した英霊の遺勲を歴史的に永く後世に伝えるため、陸軍特別操縦見習士官之碑を計画し京都清水寺に近い京都護国神社境内に決定。碑は特別操縦見習士官出身者の浄財と一期生神野義衛（彫刻家日展審査員）吉原正（設計事務所主宰）によりブロンズ製として、出身者のみの手により建立が完遂され、建立後神社に奉納した。爾後の維持管理は神社側で行っている。「陸軍特別操縦見習士官之碑」という題字は佐藤栄作元総理の揮毫である。

合祀者 陸軍特別操縦見習士官出身者

所在地 京都市東山区清閑寺

霊山町一 護国神社内

建立 昭和46年3月21日

陸軍航空

# 児玉飛行場跡之碑



### 由来 (碑文の抜すい)

児玉飛行場は昭和18年に完成し、10月から熊谷陸軍飛行学校児玉教育班として使用を開始した。19年4月には学徒動員の特別操縦見習士官二〇〇名が入校し、児玉教育隊と改称、三ヶ月の短期間に操縦教育を終了し、特攻隊要員として第一線部隊に配属された。

同年10月児玉基地と改称、第一四四飛行場大隊が配置され、各分科飛行部隊及び特別攻撃隊の基地となつて帝都の防衛、硫黄島攻撃、或いは太平洋近海を遊弋する敵機動部隊に対する攻撃等、重要航空作戦に任じた。

所在地 埼玉県児玉郡上里町嘉美  
 児玉工業団地内飛行場跡  
 建立 昭和55年11月15日



特攻文芸

短歌・俳句・川柳の部



● 除夜の鐘 またお迎えが 近くなる

● 年はじめ 禁酒の誓い 何度目だ

ネ コ



● 底冷えの 壕で抱き合う 浮浪姉妹

● 深雪晴れ シラミ匍匐す 孤児の額

● 置引きし 問答無用 寒なみだ

● 事切れし 半纏の児に 狂れる母親

松花江

● 約束の 社の杜の 木の幹に

ふれて貴方の 面影偲ぶ

淳子

● 幾年も 君にとどけと 咲け桜

淳

**事務局からの報告等**

一 令和5年度第3回理事会及び第1回臨時評議員会の実施報告

昨令和5年11月28日(火)に、第3回理事会が、12月13日(水)に、第1回臨時評議員会が、それぞれ開催され、令和6年度事業計画及び収支予算(令和6年度収支予算書・案)が審議され、いずれも令和6年度計画として承認されました。なお、令和6年度事業計画の骨子は次のとおりです。

(1) 特攻顕彰会主催等慰霊祭  
ア 第45回特攻隊全戦没者慰霊祭  
靖國神社

令和6年3月23日(土)

イ 第74回特攻平和観音年次法要

世田谷山観音寺

令和6年9月22日(日・祝)

(2) 各護國神社への「あゝ特攻勇士の像」奉納

(3) 全国各地慰霊祭への参加、協賛

(4) 機関誌「特攻」の発行(年5回)

(5) 特攻隊戦史他の調査研究と資料の収集

収支予算(令和6年度収支予算書)は

次頁のとおり。

また、令和6年度の当顕彰会の理事及び評議員は、次のとおりです。

理事等  
会長

副理事長  
専務理事

兼事務局長  
業務執行理事

業務執行理事  
理事

理事  
理事

理事  
監事

監事  
評議員

藤田 幸生

岩崎 茂  
岡部 俊哉

石井 光政  
鮎田 英一

福江 広明  
臼田 智子

久納 雄二  
大穂 園井

阿部 軍喜  
羽瀨 徹也

秋山 政隆  
倉形 桃代

太田 兼照  
長瀬 彰孝

岩成 真一  
宮本 雅史

國分 雅宏  
金古 伸一

ださい  
慰霊祭の細部については、同封の案内書をご覧ください。参列される方は、同じく同封の「郵便払込取扱票」(会費納入用紙兼用)にご記入の上、お申込みください。

三 会報記事の訂正について

・会報一四七号(令和5年11月号)

38頁表題

誤 長野県「湯ノ丸山」

正 山梨県「竜門峡」

・会報一四八号(令和6年1月号)

11頁28大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭

誤 7・13(土)

正 7・6(土)

寄付者御芳名(敬称略)

(令和5年10月1日〜12月31日)

(単位千円)

一八〇 御船 滋

二〇〇 石田 賢一

一〇〇 横山 司

七〇 浜田 義文

七〇 橘 正幸

三〇 岩浅 博之

二〇 福田 文治

一〇 中野 和一

一〇 佐多 和仁

## 令和6年度収支予算書(損益ベース)

令和6年1月1日から令和6年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	13,814,000	14,970,000	△ 1,156,000	
② 特定資産運用益	475,000	130,000	345,000	
③ 年会費	2,100,000	2,740,000	△ 640,000	
④ 慰霊事業益	1,800,000	1,800,000	0	
⑤ 出版事業益	50,000	20,000	30,000	
⑥ 広報事業益	0	0	0	
⑦ 受取寄付金	2,100,000	2,000,000	100,000	
⑧ 雑収入	0	0	0	
経常収益計	20,339,000	21,660,000	△ 1,321,000	
(2) 経常費用	0			
①事業費	17,591,200	18,284,000	△ 692,800	
慰霊事業負担金	820,000	820,000	0	
像制作負担金	0	2,060,000	△ 2,060,000	
発送等委託費	1,500,000	1,500,000	0	
他団体助成金	1,700,000	2,100,000	△ 400,000	
役員報酬	180,000	180,000	0	
給料手当	4,200,000	3,480,000	720,000	
福利厚生費	540,000	360,000	180,000	
旅費交通費	3,420,000	2,700,000	720,000	
通信運搬費	288,000	522,000	△ 234,000	
会議費	180,000	120,000	60,000	
光熱水料費	72,000	72,000	0	
消耗品費	360,000	480,000	△ 120,000	
賃借料	2,160,000	2,220,000	△ 60,000	
臨時雇賃金	840,000	660,000	180,000	
印刷製本費	660,000	540,000	120,000	
減価償却費	84,000	120,000	△ 36,000	
諸謝金	250,000	200,000	50,000	
退職手当	0	0	0	
退職手当引当資産繰入	337,200	150,000	187,200	
②管理費	8,880,800	7,736,000	1,144,800	
役員報酬	120,000	120,000	0	
給料手当	2,800,000	2,320,000	480,000	
福利厚生費	360,000	240,000	120,000	
旅費交通費	2,280,000	1,800,000	480,000	
通信運搬費	192,000	348,000	△ 156,000	
減価償却費	56,000	80,000	△ 24,000	
消耗品費	240,000	320,000	△ 80,000	
印刷製本費	440,000	360,000	80,000	
会議費	120,000	80,000	40,000	
光熱水料費	48,000	48,000	0	
賃借料	1,440,000	1,480,000	△ 40,000	
臨時雇賃金	560,000	440,000	120,000	
退職手当	0	0	0	
退職手当引当資産繰入	224,800	100,000	124,800	
経常費用計	26,472,000	26,020,000	452,000	
当期経常増減額	△ 6,133,000	△ 4,360,000	△ 1,773,000	
2 経常外増減の部	0	0	0	
(1) 経常外収益	0	0	0	
貯蔵品資産受入	0	0	0	
資産計上	0	0	0	
投資活動収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
特定資産への振替	0	0	0	
貯蔵品除却損	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 6,133,000	△ 4,360,000	△ 1,773,000	
一般正味財産期首残高	291,802,960	288,273,507	3,529,453	
一般正味財産期末残高	285,669,960	291,802,960	△ 6,133,000	
II 指定正味財産増減の部	0	0	0	
一般正味財産から振替	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	285,669,960	291,802,960	△ 6,133,000	

新入会員名簿(敬称略)

(令和5年10月1日～12月31日)

北海道	高橋 敦
埼玉	藤根 順三
	藤原 英生
千葉	白川 耕市
	斉藤 和男
神奈川	大槻 浩和
大阪	穂積 勝
会員訃報(敬称略)	
ご冥福をお祈りします。	
福島	渡辺 一民 (5・9・23)
東京	中村 格 (5・3)
	佐藤 静子 (5)
	望月 賢一 (5)
神奈川	栗田 平司郎 (4)
福井	中山 石 (5・8・9)
岐阜	藤井 亮一 (5)
滋賀	白井 朋司 (4)
兵庫	小野寺正芳 (5・9)
熊本	田中 義人 (5・8・27)

会員ご入会のご案内

「特攻隊戦没者に感謝と敬意を」

当顕彰会は、先の大戦の末期、一つしかない命を、祖国の安泰と家族や大切な人のために捧げられた特攻隊員に対し「あなた達のことは忘れません。有難うございます。感謝します。私たちも努力します。どうぞ安らかに！」を胸に、慰霊・顕彰を行う団体です。これにご賛同して頂ける方ならどなたでも会員にお迎えいたします。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

○当顕彰会の主な事業

- ・特攻隊戦没者の慰霊顕彰(他団体への参加を含む)
- ・会報の発行等による特攻及び戦没者の伝承等
- ・特攻に関する資料の収集、調査、図書等の貸出講演会等の開催その他

○年会費

- ・一般会員 3000円
- ・学生会員 1000円

○ URL: <https://tokkotai.or.jp>

QRコード



ご投稿についてのお願い

ご投稿に際しては、次の点にご留意くださるようお願い致します。

- 1 原稿は、手書き、ワープロ、パソコン作成のいずれでも結構です。可能ならば、ワードファイル、又はテキストファイルで頂ければ幸いです。PDFファイルは編集の都合上、お受けできません。
- 2 記事の取捨選択、紙面の都合等による一部割愛、修文等については、当顕彰会にお任せ願います。
- 3 投稿記事に関する写真がありましたら、なるべく添付して下さい。
- 4 原稿、写真等は、原則としてお返し致しません。が必要な場合はその旨お書き添え下さい。
- 5 会員以外の方の投稿も歓迎致します。
- 6 投稿記事等の送付先は、左記宛てとして下さい。

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋一丁目5-7

東専堂ビル2階

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会

電話 03-5213-4594

FAX 03-5213-4596

E-mail [jimukyoku@tokkotai.or.jp](mailto:jimukyoku@tokkotai.or.jp)